

令和2年上尾市教育委員会第1回臨時会 会議録

- 1 日 時 令和2年8月5日（水曜日）
開会 午前9時30分
閉会 午後3時48分
- 2 場 所 上尾市役所 7階教育委員室
- 3 出席委員 教育長 池野和己
教育長職務代理者 細野宏道
委員 中野住衣
委員 大塚崇行
委員 内田みどり
委員 小池智司
- 4 出席職員 教育総務部長 小林克哉
学校教育部長 瀧沢葉子
学校教育部副参事 兼 指導課長 兼 教育センター所長 田中栄次郎
教育総務部 教育総務課長 池田直隆
中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長 川原田一郎
国語科専門部会長 大澤聡
社会科専門部会長 伊藤潔
数学科専門部会長 村田正則
理科専門部会長 佐々木智美
音楽科専門部会長 石井都
美術科専門部会長 豊田好伸
保健体育科専門部会長 松本壽男
技術・家庭科専門部会長 安藤寛仁
外国語科専門部会長 山田正浩
道徳科専門部会長 示野浩生
学校教育部 指導課副主幹 松林剛志
書記 教育総務課主幹 利根川直秀
教育総務課副主幹 上山英樹
教育総務課主査 田中輝夫
教育総務課主任 中里ひろみ
- 5 傍聴人 16人

6 日程及び審議結果

日程第1 開会の宣告

日程第2 会議録署名委員の指名

日程第3 協議

令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

日程第4 議案の審議

議案第43号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

日程第5 閉会の宣告

7 会議録

日程第1 開会の宣告

(池野和己 教育長) ただ今から、令和2年上尾市教育委員会第1回臨時会を開会いたします。本日、傍聴の申出はございますか。

(池田直隆 教育総務課長) 16名の方から傍聴の申出がございます。教育長の許可をお願いいたします。

(池野和己 教育長) 傍聴を許可いたします。ご案内をお願いします。

～傍聴人入場～

(池野和己 教育長) 本臨時会は、令和3年度使用の中学校の教科用図書の採択について、協議及び議案の審議を行います。最初に本日の日程につきましてご案内申し上げます。本日は「日程第3 協議」が令和3年度に使用する中学校の教科用図書10教科について協議を行うことから長時間に及ぶ為、午前と午後に分けて行いたいと存じます。具体的には、午前に「日程第3 協議」の途中まで、国語、社会、数学、理科の4教科について、各専門部会からの調査検討事項の説明及び質疑を、それぞれ教科ごとに行います。午前はここで一旦終了し、昼食休憩後、午後1時30分から協議を再開します。午後は、残りの教科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳について同様に進め、すべての教科について説明及び質疑を終了後、教科書選定の投票を行い、集計の後、結果を報告し、協議を終了します。協議終了後、議案の準備のために、暫時休憩を取り、その後、「日程第4 議案の審議」、「日程第5 閉会の宣告」と進めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。なお、上尾市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則に基づきまして、川原田 中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長及び各教科の教科用図書選定資料作成委員会専門部会長に出席を求めていますので申し添えます。それでは、日程に従いまして会議を進めたいと思います。

日程第2 会議録署名委員の指名

(池野和己 教育長) 「日程第2 本臨時会の会議録署名委員の指名」を行います。会議録署名委員は、中野委員をお願いいたします。

(中野住衣 委員) はい。よろしくお願い申し上げます。

日程第3 協議

(池野和己 教育長) 続きまして、「日程第3 協議」でございます。教育委員の皆様には、資料作成委員会が作成した選定資料、専門部会調査研究資料、各中学校からの調査研究資料、各中学校からの保護者アンケート、教科書展示会アンケート、埼玉県教育委員会調査資料、中学校教科用図書編集趣意書、中学校用教科書目録など、既に配布しておりますが、これらを基に事前に研究を進めていただいたことと存じます。本日これより、教科の専門部会ごとに調査検討事項の説明をしていただき、慎重審議の上、採択を行いたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、協議の説明をお願いします。

(瀧沢葉子 学校教育部長) 中学校教科用図書の採択につきましては、文部科学省「中学校用教科書目録」の中から、教科用図書を選定し採択いただくことになっております。本日は、すでに配布させていただきます各資料から、資料作成委員会の研究結果を、御報告申し上げます。

(池野和己 教育長) それでは、上尾市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則第5条第5項の規定により、川原田 中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長より、令和3年度使用中学校教科用図書の採択について、調査検討事項の説明をお願いいたします。

(川原田一郎 中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長) それでは、ただ今から、中学校教科用図書の採択に係る選定資料についてご説明いたします。資料作成の過程でございますが、校長1名、専門的知識を有する教員2名から5名により専門部会を組織し、すべての教科書発行者の教科用図書について調査研究し、その結果を資料作成委員会において報告していただきました。その報告をもとに、学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケート等も参考にしながら作成したものが、選定資料でございます。

(池野和己 教育長) それでは、「国語」より順に、各専門部会長の方から調査検討事項の説明をお願いいたします。

(大澤聡 国語科専門部会長) 「国語」についてご報告いたします。国語につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、学習指導要領の目標を受け、テーマを設けて、各領域の内容で単元を構成しています。知識及び技能の習得のための工夫として、「てびき」が分かりやすく作られています。自分の力で語彙を広げていくことができる工夫があります。各学年とも巻末に身近な例を題材とした教材があり、情報を活用する力を身に付ける工夫があります。また、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫として、「読むこと」を次に出てくる「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に生かせる構成になっています。読書に親しむ態度を育成する工夫として、教材の終わりに、関連する本の紹介「読書案内」がついていて、意欲を読書につなげる工夫がされています。

三省堂は、学習指導要領の目標を受け、領域別教材一覧表で「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」の付けたい力を明示しています。知識及び技能の習得のための工夫として、「思考の方法」「語彙を豊かに」がイラストを多く入れて分かりやすく、生徒が主体的に学べる工夫となっています。「情報を関連づける」という単元で考えを深められるようにしています。また、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫として、「学びの道しるべ」の最後に「学びを広げる」があり、学んだことを他の学習や読書へつなげる工夫がされています。読書に親しむ態度を育成する工夫として、教材の終わりに、関連する本の紹介「私の本棚」がついていて、意欲を読書につなげる工夫がされています。

教育出版は、学習指導要領の目標を受け、小説、評論等の文種を示して、テーマ毎に各領域で単元を構成しています。知識及び技能の習得のための工夫として、教材のあとに「みちしるべ」がついていて、生徒が主体的に学習を進めやすくなっています。教材末の「学びナビ」で情報の扱い方が身に付くように工夫されています。また、思考力・判断力・表現力等を養うための実践問題「学びのチャレンジ」がついており、力が付いているかどうか客観的に測ることができるようになっています。巻頭に「言語活動例」と明記されていて、どのような言語活動なのか意識しやすくなっています。読書に親しむ態度を育成する工夫として、「広がる本の世界」があり、たくさん本を単元に関連した形

で紹介しています。

光村図書は、学習指導要領の目標を受け、「学習」のページを充実させ「見通しー捉えるー読み深めるー考えをもつー振り返る」の形で統一されています。知識及び技能の習得のための工夫として、「言葉を広げる」や「言葉の窓」で語句の課題や学習用語を示し、語彙を広げられるようになっています。また「思考のレッスン」「情報処理のレッスン」という教材があります。思考力・判断力・表現力等を育成する工夫として、「知識・技能」に示された指導事項をおさえ、その力を活用して各領域の言語活動を行えるように、教材配置が工夫されています。読書に親しむ態度を育成する工夫として、読書案内に、「私の一冊」や「私のおすすめ」があり、本が身近に感じられるようになっています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「国語」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 質問させていただきます。国語の教科書4者の中で、同じ題材を扱っているものがあると思います。その中で、学びについて、出版社によって切り口が違うというか、質問の内容が違って来る部分がかかなりありました。そういったものというのは、教科書を選ぶ上で、どういう切り口が良いとか、そういったことは、先生方の方で検討されたということはございましたでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 部会では、そこまでは取り上げておりません。

(内田みどり 委員) それはやはり各出版社の考え方だということで終わっているわけですね。

(大澤聡 国語科専門部会長) はい。

(内田みどり 委員) わかりました。ありがとうございます。

(中野住衣 委員) 今ご説明がありましたように、読書活動の推進のために、各者、様々に読書教材を工夫して色々なところに配置しています。そういう教科書で授業していく中で、中には各学習で、それに関連した図書を紹介したり、案内したりしてあると、授業が終わったときに、これを学習して読みたいなということで、生徒の意欲が持続してそちらに繋げるのかなと思いました。中学生というのは読書離れが進んでいます。教科書には様々に工夫してあるので、中学生の読書を推進するために、教科書の内容をどのように扱っているのか教えていただけますか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 各者とも、読書について、力を入れている様子は研究をしたところで伺えました。国語で学習したことをもとにして、子供達を読書へ誘う様な授業を中学校の国語科の教員としては、そこが新しい学習指導要領でも、力を入れているところです。そこを上手く子供達の興味関心を教科書に示された資料等を押さえながら、子供達を読書へ誘うということを国語の授業の中で、それぞれの教員が工夫をしているところかなと思います。

(中野住衣 委員) そこに案内された、教材に出て来たものについては、生徒が手に取ることが多いような部分というのは、今までの状況からしてもありましたか。

(大澤聡 国語科専門部会長) はい。それは、あると思います。また、教科書で示されているような本を学校図書館の方になるべく入れるようにしています。

(中野住衣 委員) はい。わかりました。

(大塚崇行 委員) 国語だけではないのですが、SDGsについて詳しく説明されている発行者さんが中にありまして、取り組み方というかそういう部分というのは、どう考えているのかお聞かせ願えればと思います。

(大澤聡 国語科専門部会長) もちろん国語科の中でも、特に説明的文章が中心になるかと思いますが、押さえられている部分がありますので、国語科としての指導事項を押さえながら、そのテーマに沿った指導をしていきたいと考えています。

(大塚崇行 委員) どう取り組んでいって良いか分からないというのは曖昧な部分があるのですが、教科書によっては力を入れている教科書もあったものですから伺いました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 説明ありがとうございました。先程ある教科書について、他の教科への広がりという文言がありました。国語というのは、全ての教科を学ぶにあたって、例えば理科でも数学でも良いのですが、何を質問されているか理解をしてその教科を学ぶということで、原点だと思います。他の教科への広がりということで、ある者については言及をされていたのですが、その他のものについては何かそういうものというのがありますか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 他教科との関連、委員さんがおっしゃったように国語科は、全ての学びの根幹である言語についての事を学ぶ教科ですので、他教科への広がりというのは、国語科で指導すべきことは、きちんと国語科で指導します。国語科の指導事項は、指導しますが、他教科とのかかわりを意識しながら、指導していくというのは、中学校の国語科の教諭は、皆考えているところであります。

(細野宏道 教育長職務代理者) ありがとうございました。

(中野住衣 委員) 先程、ある教科書会社のところで、情報の扱い方に関する事項としてお話があったときに、「思考のレッスン」だとか「情報処理のレッスン」とか、そのページはとても良いなと思いました。教科書によっては、情報社会を切るという教材も出来ていたりして、情報の扱い方に関して、各者の状況について、どのような内容が書かれているか教えていただけますか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 新しい学習指導要領でも、情報の扱い方というのは、新しい指導事項として新設されておりますので、各者とも情報の扱い方については、今回の新しい教科書について、それぞれ、ここがそこを意識したのだなと思う様なところはどの教科書にもございます。

(中野住衣 委員) その切り口というか、内容は全く違うということでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 切り口はそれぞれ違いますが、新しい学習指導要領で示されていることです。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。ありがとうございました。以上で「国語」の質疑を終了いたします。続いて「書写」の説明をお願いします。

(大澤聡 国語科専門部会長) 「書写」についてご報告いたします。書写につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、学習指導要領の目標を受け、学習事項を明確にし、単元を対話的に振り返る工夫をしています。図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させたつくりになっています。知識及び技能の習得のための工夫として、「書写のかぎ」として提示し、「目標・見つけよう・確かめよう・生かそう・振り返って話そう」と学習の進め方を示しています。また、「生活に広げよう」では、生活の様々な場面に応じて、思考力・判断力を働かせて表現するような学習過程になっています。文字に親しむ態度を育成する工夫として、手紙や新聞・リーフレット・ポスターなど、国語と関連させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力の育成を図っています。

三省堂は、学習指導要領の目標を受け、各教材を見開きで構成し、学習内容を一覧で示しています。基礎編、本編、資料編の三部構成となっており、資料編には、日常の書式や、楷書・行書の一覧が掲載されています。知識及び技能の習得のための工夫として、「書き方を学ぼう」で、学ぶべき書き方のポイントを示し、「書いて身に付けよう」では、毛筆学習で学んだことを生かした硬筆練習が設定されています。また、思考力・判断力を働かせて、目的や必要に応じた書体を書き分けられるようにしています。文字に親しむ態度を育成する工夫として、文字の歴史や文化、社会で活躍する人等の紹介など、身の回りの豊かな文字文化に触れる教材を紹介しています。

教育出版は、学習指導要領の目標を受け、系統的、段階的に見通せる構成、教材配置になっています。教科書は半紙型のイメージを大切にしたりとになっています。知識及び技能の習得のための工夫として、学習内容や手順を示し、「試し書き」「まとめ書きと応用」として記入欄を用意して、系統的、段階的に学習できるようになっています。また、思考力・判断力・表現力等の育成の工夫では、「考えよう」で課題を発見し、解決していく学び方や話し合い活動を通した学び方が示されています。また、学習ポイントを確認するための書き込み欄が設けられています。文字に親しむ態度を育成する工夫として、キャリア教育、高校への接続を考慮した教材が用意されています。

光村図書は、学習指導要領の目標を受け、見開きで、学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字を配しています。主たる学習要素を大きく、大切なことがひと目でわかるすっきりとした紙面構成となっています。知識及び技能の習得のための工夫として、学習の内容・活動の流れをわかりやすく示し、「学習の窓」で学習のポイントが簡潔にまとめられています。また、思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫として、考えたり、話し合ったりする活動を設定するなど、主体的な活動を取り入れています。文字に親しむ態度を育成するための工夫として、日常とのつながりが実感できる教材を幅広く取り上げ、学んだことを日常に生かせるようにしています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。「書写」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(中野住衣 委員) 別冊ノートがある会社がありまして、そこは当然ノートがあるので、教科書の方は

厚さが薄くなっていました。それについてはどんなふうな話題になりましたでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 別冊ノートの扱いについては、各学校で工夫かなと思います。本編が確かに別冊ノートの分薄くはなりますが、そこについて特に部会での議論はありませんでした。

(中野住衣 委員) 実際に教科書が薄く軽くなって、生徒の机というのは限られたスペースですから、重さだとか大きさだとか考えると、別冊になっている方が使い易いのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 実際には、その教科書は別冊になっていますけど、そうでなくても何か書くものは必要なので、教室の机の上には用意します。

(中野住衣 委員) そうしますと厚い教科書などは、教科書の中に書くスペースがありますが、それ以外に書写の指導は、中学校においては別にプリントのようなものを用意するパターンが多いということでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 用意する場合がありますし、教科書の作りによっては、そのままそこに書かせるという場合もあります。それは担当の先生の判断によると思います。

(大塚崇行 委員) QRコードが充実しているところもあるのですが、そちらというのは授業で使うことを想定しているのか、若しくは家庭だけの使用というのを考えられているのか、その辺り協議というのはありましたでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) もちろん家庭学習ということも考えておりますが、市の方で入れていただいたパソコン等使いますと学校でも、それが可能であるというふうに、教育委員会の事務局の方から伺っていますので、今後授業の中でも活用していけるかなと考えています。

(大塚崇行 委員) 各者興味を引く内容のものが沢山ありましたので、是非使えるのではないかと思います。

(小池智司 委員) 過程の中で、毛筆で学んだことをそのまま硬筆で、それをまた活用できるようになっている教科書会社がありました。他のところも毛筆と硬筆、同じ文字を毛筆から硬筆にかえた時、となっている教科書と単に毛筆で書いた場合と硬筆で書いた場合はこうですよというものと、どちらの方が、先生としては生徒に教え易いというのはあるのでしょうか。

(大澤聡 国語科専門部会長) 基本的に毛筆書写は、硬筆に繋がるという意識をもって国語科の教員は指導をしていますので、同じような、同じ文字を毛筆で書いたあとに、硬筆題材が用意されているものと、そのようになっていないものがあっても、私たちとしては、毛筆書写は、硬筆の基礎になるものであるというスタンスで常に指導はしています。

(細野宏道 教育長職務代理者) 今の質問に関連しますが、毛筆が基礎ということで、イラストが載っているものがありました。これが良いな、これは分かりづらいかなというふうに私は感じたものがある

ったのですが、それについて議論はありましたか。

（大澤聡 国語科専門部会長） 特にイラストの良し悪しについては部会では議論はありませんでした。

（内田みどり 委員） 日常生活のつながりについて、書かれている教科書があって、増えているように思いました。願書の書き方ですとか、そういったものは凄く良かったなと思います。ただその分、毛筆で書く時間が減らされているような感じも受けました。割合的に授業で何時間ぐらいが毛筆に充てようとか、そういったものの決まりみたいなものはあるのでしょうか。

（大澤聡 国語科専門部会長） 年間指導計画を各学校で作成しています。国語科の時間の中で書写の時間をどの程度取らなければいけないといのは学習指導要領で示されています。その時間の中の割り振りで、バランスよく指導できるように、各学校で年間指導計画を立てていると思います。

（内田みどり 委員） ありがとうございました。

（中野住衣 委員） 中学校ということで、楷書から行書へ、段階として進んでいきますが、それについては各者、随分指導の内容は違うと私は思いました。それについて部会の中で話題は出ましたか。

（大澤聡 国語科専門部会長） 楷書から行書への移り変わりについては、部会の中では特に話題にはなりませんでした。

（中野住衣 委員） 随分、その会社によって違っていて、私は1者素晴らしいと思ったのは、その行書へいくのに文字に丸みが出る、次に点画が連続される場所、それから点画が変化する、省略するというのを一時間、一時間、段階を追って行書が出来るようにしているところがありました。私達大人でも、特に習字をやっていない者は、行書というのはなかなか書けないと思います。でもこの教科書を見て、その通りに段階的に練習をしていけば、こうやって楷書から行書に進んで、行書はこういうふうにして書けば良いのだということで、巻末にも漢字の型に書いてありましたので、そういう意味では、素晴らしい内容の教科書があるのだなということで、改めて書写の教科書を今回は興味深く読ませていただきました。

（池野和己 教育長） よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「書写」の質疑を終了いたします。続いて「社会（地理的分野）」の説明をお願いします。

（伊藤潔 社会科専門部会長） 「社会（地理的分野）」についてご報告いたします。地理につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、知識及び技能が習得できるようにするため、つまずきやすい事項や調査手法について、巻末などに説明があります。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「探究課題」「探究のステップ」「探究課題を解決しよう」の3段階の間で構造化されています。主体的に取り組む態度を育成するため、「みんなでチャレンジ」で対話的な学習場面を設け、社会参画の意識をもたせています。また、バランスのよい配当時間で教科書が構成されており、内容も地理的分野で学ぶべき適当な量となっております。

教育出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、「地理の技」のコーナーを適宜設け、生

徒が地理的技法を身に付けやすくする配慮が見られます。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「地理の学習にあたって」「地理にアプローチ」で、既習事項を生かした内容と地理的な見方・考え方を確認しています。主体的に取り組む態度を育成するため、現代の諸課題に迫る特設ページを設け、個人でもグループでも学びを通じて深めていくことができます。また、教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つさまざまな情報を得られる「まなびリンク」を設けています。

帝国書院は、知識及び技能が習得できるようにするため、「各章のまとめ」では、主な地形を載せるだけでなく、要点を重要語句や文章で答えさせる形になっています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、キャラクターの吹き出しに考えさせる発問が多く含まれ、これらに取り組むことで力の育成を図れるようにしています。主体的に取り組む態度を育成するため、コラムの内容が環境・防災・共生を主題としており、生徒の興味や関心を引き出しやすいものになっています。また、地形や気候に関する資料が豊富であり、写真は大小様々な大きさがあって着目しやすいです。

日本文教出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、巻頭で、「地理的な見方・考え方」についてイラストと問いを用いて示し、学習を進める手立てを習得させようとしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「導入写真・クイズ」「宣言コーナー」「見方・考え方コーナー」「アクティビティコーナー」という構成の工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、各地で見られる課題を考えることができる教材が豊富で、生徒自身が主体的に課題について考えられるようにしています。また、環境問題に関わる学習課題について、文字による説明がしっかりされています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「社会(地理的分野)」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 社会の教科書全体的なことです。凄く情報量が多くて、生徒がどれを見て良いのか、私自身もどれを見て良いのか、良く分からない部分もありました。こういった情報量が多いというのは、先生方が教えるにあたって、抜粋するですとか、何か補助教材みたいなものを必要とされているというのはあるのでしょうか。どれを見たら良いのだろうかということを感じてしまいました。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 教科書自身が、大きさも大きくなっていますし、様々な写真だとか、資料だとか、かなり精選されながらも盛沢山な内容になっているなと思います。そこが、教科書会社の工夫でもあります。一方で社会科の授業を組み立てていくときには、それ以外にも、どこかに焦点を当てていくときには、補助資料などを教員が用意したり、或いは地図帳だとか、他の副教材のものを持ってきたり、様々な工夫をされているので、そういういろんな情報を、むしろどう選択して、どう課題を解決していくかという、そういう能力を身に付けさせるということも社会科としてはとても大事なのかなと思います。そういった展開をしているのだと思います。

(内田みどり 委員) もう1点お伺いします。教科書会社がそれぞれありますが、同じ系列の教科書で、やはり、地理、歴史、公民というふうに関連付けて授業するということはございますか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 構成がやはり違うので、教科書会社が歴史とか地理とか公民、それぞれがバラバラになるとやり辛さがあるというのは確かにあるかもしれません。一応今、割と揃っているもので、そういう意味では同じような構成の教科書を手にすることができますので、やり易さはあるか

もしれません。ただ、違ってきたから教える内容が全くがらっと変わるということはありませんので、変わるということも選択肢としてはあるのかなと思います。

（細野宏道 教育長職務代理者）今内田委員の質問の中で、情報ということがありました。多大な、物凄い量の情報から、地理を読み取るということで各者工夫をされていると思いますが、読み取るということに突出する何か、各者の中で、こういう部分が優れているというのはありましたか。何故この質問をさせていただいたかという、これからは家庭学習もそうだと思うのですが、コロナ禍等々で、リモート等で、各自が自分で情報を使って読み解いていくというシチュエーションが増えてくる可能性もあると思っています。その辺について何か専門部会で議論をされたことはありますか。

（伊藤潔 社会科専門部会長）やはり、資料はとても、地理に限らず、社会科では大切なので、どんな資料がどのようなタイミングで、どれぐらいの分量が登場してくるかというのが、教科書を見ていくうえで、或いは、それをもとに授業を組み立てていくうえでは、とても大事な要素になると思います。ただそういう意味ではどの教科書も子供達自身が主体的な学びをしていける工夫をしているなと感じました。

（細野宏道 教育長職務代理者）ありがとうございました。

（中野住衣 委員）今の質問に関連してお聞きします。地理を読み解くというお話がありましたけれども、ほとんど、課題があってそれを探究して解決をしていくという、そういう学習の流れが構造化しているような教科書になっています。そういう学習の流れがあるけれども、まず基本的に、先程、知識、技能の習得が大事というお話がありましたけれども、その力が無いとそういう課題を解決するところになかなか迫れないのではないかと今回教科書を見ていて思いました。そういう意味で地理の知識、技能の習得のために、その教科書を使用して、どんなふうに指導することを心掛けると生徒にそういう力もついてくるのでしょうか。

（伊藤潔 社会科専門部会長）押さえるべき単語だとか、例えば地図をどう読んで、そこからどういふふうに正しい情報を読み解くのかというのは、基本的に技能を身に付けていないと出来ないことです。そういう基本的に地理的なものの見方だとか、情報の取り方だとか、整理の仕方が出来るように、そういう技能を身に付けるために、教師はその教科書を使って、様々な切り口を設けて指導しています。それが出来易いように各教科書もやはり工夫して、いろいろな資料を載せてくれています。

（中野住衣 委員）わかりました。ありがとうございました。

（池野和己 教育長）よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「社会（地理的分野）」の質疑を終了いたします。続いて「社会（歴史的分野）」の説明をお願いします。

（伊藤潔 社会科専門部会長）「社会（歴史的分野）」についてご報告いたします。歴史につきましては、7者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、知識及び技能が習得できるようにするため、基礎的技能を説明する「スキル・アップ」などで、資料収集・読み取りの技術を高める工夫をしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を章の最初と他の多くのページに設け、対話

的な活動を通じて学習を深められるようにしています。主体的に取り組む態度を育成するため、「地域の歴史を調べよう」では課題追究学習の流れが事例とともに丁寧に示されています。また、本文での学習内容を補充する「歴史にアクセス」を設け、興味をもった生徒が主体的に知識を深められる工夫があります。

教育出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、「学習課題」「時代スケール」「学習の確認と表現」を構造化し、課題意識をもった学習により、知識定着を図ろうとしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「読み解こう」では、具体的な手がかりや問いかけをもとに資料の読み取りに取り組むなど、時代の特色を考察できるような工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、コラム「歴史の窓」が設けられています。また、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」を設け、各章の冒頭にマークが記載されています。

帝国書院は、知識及び技能が習得できるようにするため、時代を概観する大きなイラストで各時代の比較を意識させ、章末の「タイムトラベルを眺め直そう」で時代の変化を知識として定着させようとしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「技能をみがく」コーナーを12か所設け、史料読解や聞き取りからの情報収集等に取り組める工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、最終単元の「未来に向けて」において、社会参画の意識を高め、多面的・多角的な考察を深める工夫があります。また、「コラム」を5種類設け、より深く学習できる工夫があります。

山川出版社は、知識及び技能が習得できるようにするため、各章の扉に日本史と世界史の年代を上下に分けて示す帯年表を配置し、時代の流れを視覚的につかむ工夫があります。思考力・判断力・表現力等を育成するため、遺物・史跡などの図版に発問が付いていて、ここから話し合い、考察しながら歴史を学ぶことができるような工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、「地域からのアプローチ」で7地域を取り上げ、地域を通して多面的に歴史を考える態度の育成を図ろうとしています。また、教科書の内容をより深める「コラム」で、関心のある生徒は学習できる工夫があります。

日本文教出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、1単位時間の「学習課題」と「見方・考え方」を明示し、「確認」コーナーで知識の定着を図るようになっています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、資料をもとに、自分で考えたり、対話したりして学ぶ「チャレンジ歴史」が5つ設定されています。主体的に取り組む態度を育成するため、大きな時代の特色をとらえるための「導入ページ」を配置し、考察する学習、振り返る学習へのつながりを構造化しています。また、3つの種類のコラムが用意され、歴史の学習をはば広く豊かにするテーマを取り上げ、より深く学習できる工夫があります。

育鵬社は、知識及び技能が習得できるようにするため、各章の導入に「〇〇の世界によこそ！」を配置して、歴史の大きな流れをつかむ工夫があります。思考力・判断力・表現力等を育成するため、各章の「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する大きなできごとについて、様々な資料を基に、掘り下げて考え議論できるような工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、「人物クローズアップ」で多くの歴史的人物を紹介しています。「なでしこ日本史」では女性の活躍を紹介しています。歴史学習を幅広く豊かにするための「歴史にズームイン」があり、より詳しく学べる工夫があります。

学び舎は、知識及び技能が習得できるようにするため、章末にインタビュー記事などがあり、学んだ情報を整理・分析する技術を高めようとしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「まとめ」では地図や年表などを活用して歴史的事象をさまざまに関連付けたりする課題などが設定されています。主体的に取り組む態度を育成するため、生徒と同年代の人物の視点および庶民の視点からの本文記述・コラムを多くして、探究学習ができる内容になっています。また、タイトルと学習

課題が、身近な分かりやすい言葉で表現されていて、学習に取りかかりやすくなるような工夫があります。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「社会(歴史的分野)」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(細野宏道 教育長職務代理者) 高校に進んだ生徒は、日本史、世界史に分かれて、歴史分野を勉学する訳ですが、中学校では歴史という教科になると思います。そうすると日本と世界の中の繋がりということ意識しているものとそうでないものが見受けられるのですが、それについて専門部会で議論はありましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 帯年表とかで、世界の歴史と日本の歴史を併記して、そういう意識の仕方をしている教科書もありますので、特徴として、そういう議論もありました。

(内田みどり 委員) 先程の帯年表について、下にあるものですか、教科書の途中にあるもの、それから縦に書いてあるものなどがあったのですが、縦型のものが全ページに載っている年表ですと、割合と自分がどこの部分を勉強しているかというのが、凄く分かり易いと感じました。この帯年表を使って、授業で何かメリットですとかデメリットですとか、そういったものは何か考えられますでしょうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 歴史を勉強していく時には常に、そこだけの歴史だけではなくて、そこと世界の繋がりだとか、或いは前後の繋がりだとか、そういう繋がりを意識させるということはとても大事なようになってきます。流れを掴ませるといのはとても大事なことになるので、帯年表がいろんなところに配置されているというのは、教える方としてはやり易いし、良い年表が付いているねとかそういう議論はありました。

(内田みどり 委員) 縦型のものがどこのページをめくって良いのかというのが一目でわかったので、それは見易いなと物凄く感じました。

(大塚崇行 委員) 今の質問と同じなのですが、ものによっては多すぎるのではないかと思うぐらい年表が掲載されていると感じました。ここまで多くなくても良いのではとも感じたのですが、そのあたりはどうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 全てを盛り込めば、当然情報は盛沢山にならざるを得ないので、そこをどの程度に抑えていくか、バランスを教科書会社、それぞれに工夫されているのだろうと思います。

(小池智司 委員) 同じようなことなのですが、各者、教科書1ページの中に、帯年表があったり、いろんなことが掲載されていて、教科書の中はかなり情報があると感じました。1者、凄くすっきりとしたつくりの教科書だなと思うところがあったのですが、それを使うとなると、帯年表とかもないので、生徒が全部自分で調べたりだとか、先生が授業の中で説明したりだとかする必要が出てきます。逆にそういうふうになると自分で調べたりだとかして、生徒に力を付けさせるという方法もあるのか

なと思いましたが、そこら辺は部会で話はありましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 全体的に、様々な情報が盛沢山になってきているのは確かだと思います。そういう議論も部会ではありました。一体どの程度が一番使い易いのだろうというところは、先生方によっても違うでしょうし、教科書会社さんの方でも、何をどこまで、どのタイミングでどの大きさで載せるのかというのは、様々な工夫されていると思います。情報が少なければ、おっしゃったように、そこにいろんな情報を外から取ってこななければいけないので、それはそれできっと子供の力をつけることになると思います。一長一短あるのだろうなと思います。

(中野住衣 委員) 各者読んでいくと、使っている資料ですとか、それから切り口、どんなふうに書かれているか、それぞれ違うと思います。教科書の中に、歴史の見方、考え方、そういう文言で、そういう力を育てていく学習活動が、展開されるように工夫されているのだなと思われる箇所が多かったように思います。その歴史の見方、考え方、そういう力を習得するために、全体的に各者が工夫してあったところはこういったところですか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 調べていくときに、視点として、知識・技能がしっかり押さえられていないと、その発展が出来なくて、それをいかにしっかり押さえるか、その上で、思考力や判断力、表現力等、それを更には主体的に、子供が中心に課題解決に繋げていける、そういう工夫を、どこの教科書会社も結構していて、吹き出しだとか、いろんなところにヒントというか、切り口がちりばめられています。そんな教科書会社さんの、努力、工夫をそれぞれに感じながら見ていました。

(中野住衣 委員) どこも同じように、それぞれ工夫があるということですね。

(伊藤潔 社会科専門部会長) やり方は違ったとしても、それぞれの観点で、様々な工夫をされています。

(中野住衣 委員) 特にこういうことでこういう力が養われるということではなく、それぞれが工夫されていましたということですね。わかりました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 歴史ですと、例えば何年に何があったと、単に暗記をするということに陥りがちなのですが、今先生が言われた歴史上の基礎事項というのでしょうか、それが各者ちりばめられているという言葉をおっしゃったのですが、特に暗記に片寄らないで歴史を理解していくということで、何か専門部会の中でこういうポイントが子供達にとって単に暗記ではなくて、理解をしていくうえで役立つといった部分というのはありましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 暗記だけに陥らない、暗記もとても大事なのですけれども、やはりポイントは、しっかりと記憶、年代も把握しなければいけないので、そうさせながら、一方では、大きな歴史の流れだとか、その起こった事象だけではなくて、その前後のことだとか、そういう繋がりを様々な考えさせることが大事なので、そんな工夫を教科書はしています。読めば読むほど、そういう記述だとかヒントがいろんなとこにありますので、どの教科書もその工夫はされているなと思いました。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「社会（歴史的分野）」の質疑を終了いたします。続いて「社会（公民的分野）」の説明をお願いします。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 「社会（公民的分野）」についてご報告いたします。公民につきましては、6者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、知識及び技能が習得できるようにするため、単元の導入資料や「スキルアップ」の「読み取る」「集める」で、資料活用の着眼点が具体的に提示されています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、導入ページでシミュレーションを取り入れ、その次のページで単元の見通しをもたせる工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、章全体を通した「探究課題」を解決するために、節ごとに「探究のステップ」で問いが設定されています。また、各章の「導入の活動」や「18歳へのステップ」では、社会参画の視点が盛り込まれています。

教育出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、学習内容を象徴的にイメージできる主題と学習事項をあらかず副題において、学習の要点をとらえやすくしています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、学習の見通し、学び方、ノートづくりについて説明があり、具体的に方法を知ることができます。主体的に取り組む態度を育成するため、見開きごとにキャラクターによる問いかけと、学習パートの表示があり、何を学ぶのかが見えるようになっています。また、公民学習の始めにSDGsについて取り上げ、見開きごと・章ごとの振り返りで関連する項目を挙げています。

帝国書院は、知識及び技能が習得できるようにするため、見開きごとに情報の活用のための着眼点が明示されており、現状や課題を読み取り、問題発見をしやすくする工夫があります。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「技能をみがく」というコーナーで思考ツールを紹介し、自分や他者の考えを整理、分析する工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、「Yes, No」と「アクティブ公民」では、議論などを通じて解決策を立案することができます。また、「学習の前に」では、身近なイラストを読み解き、生活と結びつけており、章の全体像をつかむことができます。

日本文教出版は、知識及び技能が習得できるようにするため、「学習の整理と活用」では、新聞記事を活用した学習内容の振り返りを設定しています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、章のまとめに「ニュースを見方・考え方から見てみよう」というコーナーを設け、具体的な出来事を取り上げています。主体的に取り組む態度を育成するため、見開きごとの「学習課題」とともに「見方・考え方」が示されており、見通しを持って学習しやすい工夫があります。また、巻末に「用語解説」「類似用語集」が設定されているほか、障がいに関するページでは、点字が表記されているなどの工夫があります。

自由社は、知識及び技能が習得できるようにするため、「ここがポイント！」で、単元の重要事項が提示され、コラム「ミニ知識」が多く掲載されています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、章のまとめ「学習の発展」のコーナーで、学習した内容を400字でまとめさせる工夫があります。主体的に取り組む態度を育成するため、「アクティブに深めよう」では資料の収集・情報の選択を通して、学習を深める道筋がたてられています。また、章ごとの見開きの導入ページがなく、単元ごとに新たな視点で学習課題を設定する構成になっています。

育鵬社は、知識及び技能が習得できるようにするため、新聞記事を使った資料が多く使われており、身近な例として読み取ることができます。思考力・判断力・表現力等を育成するため、「やってみよう」のコーナーを設定しています。主体的に取り組む態度を育成するため、各章の導入の「入口」で興味を引き出す資料が提示され、学習課題を設定できるような工夫があります。「学習を深めよう」で、学習内容をもとに調べたり考えを広げたりすることができるよう工夫されています。また、巻頭ではSDGsを扱い、学習内容と17のゴールを関連付けて学習を進められるようになっています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「社会(公民的分野)」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(中野住衣 委員) 今公民の説明ありましたけれども、地理、歴史、公民と来て、3分野で共通するテーマで、生徒が学習するということをやっている教科書会社がありまして、各分野からその視点について多角的、多面的に学習していくというのは、これは内容を見て大事なことだなと私は思いました。環境エネルギー、人権平和、伝統文化、防災安全、情報技術、この5つの内容について、地理、歴史、公民が、すべて共通して、テーマとして、それぞれの見方で学習していくということについて、これについては、調査研究部会の方では、何か話題になりましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 特に3つの繋がりについては、話題にはしていませんけど、全体的にSDGsについては、かなり意識して、今回、教科書改定にあたって、盛り込んできているなというのは、全社会的に割と共通で見られる特徴はありました。今おっしゃったようなことが大きなテーマになってきます。

(中野住衣 委員) やはり共通して、何かテーマ、SDGs等について捉えていくという、そういう方向性というのはある訳ですね。わかりました。

(内田みどり 委員) 公民の教科書、いろいろな教科書を読ませていただいて感じたのが、最終的に地理、歴史を受けて、最終的に、公民の授業を受けることによって、子供達が社会参画に結び付いていくということがテーマになっているのだなということを感じました。それについて、いろいろ研究ですとか、そういったものというのはございましたでしょうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) まさに公民は、将来の主体者としての公民を育てるのが目標ですので、今おっしゃったように主体的な学びを通して、いずれは自分で様々な事象について考えて、自分なりの答えとか考えを作っていくということが、とても大事な学習過程になります。そういうことを意識してどこの教科書も構成されているというのは、議論の中で、部会の中で話し合いは出ました。

(内田みどり 委員) 特にこれは偏っているとか、そういった話し合いみたいなものはなかったのでしょうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) なかったです。教科書会社それぞれに切り口で工夫されています。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それではありがとうございます。以上で「社会(公民的分野)」の質疑を終了いたします。続いて「地図」の説明をお願いします。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 「地図」についてご報告いたします。地図につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、知識及び技能が習得できるようにするため、巻頭の「この地図の活用方法」で、基本的な地図の活用方法が詳しく説明されています。基本資料とテーマ資料を関連付けて、調べる方法も

まとめられています。思考力・判断力・表現力等を育成するため、現代の諸課題やSDGsについてのページを設け、工夫しています。主体的に取り組む態度を育成するため、教科書の探究課題と関連した資料が多く掲載されており、主体的な取組をサポートする内容になっています。また、世界の各州や日本の各地方の学習課題と関連する資料が多く、教科書と併用しやすくなっています。

帝国書院は、知識及び技能が習得できるようにするため、土地利用や陸高が色分けして表記されており、地域の様子を端的につかむことができます。「地図活用」のコーナーを各所に設け、技能を習得するための工夫があります。思考力・判断力・表現力等を育成するため、各州の地図が、一般図→鳥瞰図→資料図という並びになっており系統的に学習しやすくなっています。主体的に取り組む態度を育成するため、デジタルページを併用することで多様な調べ学習を展開することが可能となっています。また、サイズが大きくなったことや、ユニバーサルデザインに配慮したことで見やすい地図になっています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「地図」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(細野宏道 教育長職務代理者) 特に地図に限ったことではないのですが、もちろん地図もそうですが、社会科全体として、情報を得て、それを地理的に考える、歴史的に考える、またそれらのことがどうなっているかということ地図を見る、情報を得る。QRコードが公民全てのものに記載をされています。学習においてQRコードを使って学習をすることの重要性というのは、昔は無かったのですが、最近はついているので、その辺は専門部会の中で、どのぐらい、この本はQRコードが多いよねとか、これは余り無いよねとか、そういうものは議論になりましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 議論になりました。またQRコードの数だけではなくて、開いてみると内容も様々なので、まだまだだなというものもあれば、かなり中身も充実している教科書もあったりして、当然そういう議論はありました。

(細野宏道 教育長職務代理者) そうすると、それはある程度重要性を持っているということで、専門部会では議論をしたということでしょうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) ただ教科書としては、それを全て授業の中で開いて、授業の中で展開していくということは物理的に難しいです。ただ将来的には、皆がパソコンを一人一台所持できるようになれば、そのQRコードを授業時間の中で使って様々な調べ学習をさせるだとか、そんなことも可能になってくるのだろうといった話はされました。今はまだちょっとその環境は無いので、そのQRコードを家で、例えば読み取って、補充学習的に、子供達が知識を得ていく、見ていくということが、これからどんどん増えていくのかなと考えました。

(細野宏道 教育長職務代理者) わかりました。ありがとうございます。

(大塚崇行 委員) この2者というところで言いますと、大きな教科書と普通の大きさの教科書ということで、今教科書がだんだん大きく重たくなってきているということが全体的にあると思いますが、そういったところに関するお話はありましたか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 今回帝国書院の方が、また一回り大きくなったので、当然大きくなれば、それだけ見易くなりますし、資料も増えてくるでしょうから、そういう意味ではメリットがあるとは思いますが、それだけ大きく重たくなります。地図の教科書というのは、地理を勉強するときだけではなく、公民まで全部、持ってくるようにと言って持ってこさせる社会科の先生も結構います。私も結構そういうふうにやっていました。3年間持ってくるとなると、余り大きくなり過ぎると、それだけ負担も大きくなりますから、良い面もあり、課題もあり、一長一短なのかなと思います。どちらが良いかというのは一概に言えないと思います。

(中野住衣 委員) 今の事で少しよろしいでしょうか。わからないので質問したいのですが、歴史の時間や、公民の時間にも、地図というのは、よく開くのでしょうか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 開かせていました。

(中野住衣 委員) それは先生によってそれぞれ、指導者によって違う。

(伊藤潔 社会科専門部会長) やはり歴史の教科書に地名が載っていたりすると、一体そこはどこなのだということは、すぐに知りたいし、そういうことを調べさせることでいろんな知識が繋がってきます。ですので、結構地図の教科書は、3年間持ってきたさいということで、指導している社会科の先生は少なくないと思います。

(中野住衣 委員) 例えばその2冊持ってくるのに、非常に大きくて、重さもあるので、例えば学校に置いておくような状況はあるのですか。

(伊藤潔 社会科専門部会長) 家で勉強をする必要が無ければ、置いておいても良いよと、今学校ではそういう指導をしていますので、置いていく子もいるかもしれませんが、地図を見るのが好きで、家で勉強しているときに、すぐにその場所を調べたくなったりしたときに、常に地図を持っているというのは、結構大事なことかなと思っていますので、そういう意味で持ち帰る子もいると思います。

(中野住衣 委員) わかりました。ありがとうございました。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「社会」及び「地図」に関する質疑を終了いたします。ここで、暫時休憩いたします。その間に、次に報告する資料作成委員の準備を行いたいと思います。再開は、午前10時55分から「数学」を行います。

～ 休憩 ～

(池野和己 教育長) 休憩前に引き続き、会議を再開します。「数学」の説明をお願いします。

(村田正則 数学科専門部会長) 数学科教科書についてご報告いたします。数学につきましては、7者

が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、例題と類似の問題を問の一部に◆印で示し問題の段差をなくしつまずきへの対応をしています。思考力等の育成を図るために、虫眼鏡マークで見方・考え方を引き出すように示し、Qからはじまる数学的活動や深い学びのページを設け、学習の流れを示し、見通しをもって学習できる構成になっています。問題解決学習を重視し、日常的な問題を章全体に配置するなど実生活で数学が使えるようにしていることやシミュレーションや動画を視聴できるようにするなど生徒に興味関心を抱かせるようにする工夫をしています。

大日本図書は、活動・例・例題にタイトルをつけ学習内容が分かりやすく、またそれらを適切に配置し、学習の流れが明確です。数学的活動を通して主体的に取り組み、「判断しよう」「伝えよう」「学びにプラス」の項目を設定して思考力等を育成するように工夫しています。章末の「活用」「探求」、巻末の「MATHFUL」で日常生活に使われている数学を豊富に紹介し数学に対する興味関心を高めています。「社会にリンク」を用意し仕事の中の数学を紹介して社会へのつながりや広がり在学习できるよう工夫をしています。

学校図書は、新しい章に入る前に「ふりかえり」があり、例では解答がノート形式になっており、生徒にとって分かりやすく基礎・基本を身に付けられるよう工夫をしています。問題設定を行い、「見方・考え方」で目安を提示し、まとめから、「次への課題」で疑問を持たせ、つながりを大切にする特徴があります。章末に「数学的活動」のページを配置し、教科横断的な学習ができるように工夫しています。SDGsなどの今日的な課題を題材にして資料やデータなどが数学的にどのように使用されているか分かりやすく伝える工夫をしています。巻末の「深めよう」では、数学を活用する力をつけるようにしています。

教育出版は、章の学習の前に既習事項を確認する問題、章の終わりに学習のまとめやノートの記入例を配置し復習しやすくしています。活用問題の中で、学習のステップが明確に示されており、「数学的な考え方」の適切なヒントで思考力等の育成を図っています。導入のlet's Tryでは、問題解決学習により、数学への興味関心を引き出しています。写真が豊富です。章の扉や数学の広場では社会の中の数学や歴史的な事実を扱い「学んだことを活用しよう」など日常生活に数学を活用する場面設定が多く、生徒が学びに向かうきっかけをつくるように工夫をしています。

啓林館は、教科書が表紙から「みんなで学ぼう」編と裏表紙から「自分から学ぼう」編の1冊で2部構成になっており、授業と家庭学習での活用の仕切りが明確になっている特徴があります。既習問題から発展へ系統性があり、例題や問題にタイトルがついているため、学習のどの知識を使って解くのか分かりやすく明記されています。場面設定や挿絵、図がイメージしやすく、各単元に「話し合おう」「説明しよう」「まとめよう」などを数多く配置し思考力等を育む工夫がされています。また日常の中の数学の題材も豊富に用意されています。

数研出版は、巻末に「ぐんぐんのぼそう」というチャレンジ問題が難易度別に幅広くまとめられ、数多くの問題を解けるようになっており、領域ごとに前学年と比較しまとめられた「1年間のまとめ」を利用し、復習できるようになっています。例題の説明や考え方などを教師と生徒4名の会話形式で進行し考えを広げ、教科書を使用する生徒も同じように発言や思考等をしやすくなるよう工夫されています。別冊として探究ノートという小冊子が付属し、教科書と対応させて、さらに発展的な課題に対応できるようにしています。

日本文教出版は、学習のめあて全体が色づけされ、例にタイトルがつき学習内容が分かりやすくなっており、重要語句の色分けが明確で視覚的に見やすい工夫がされています。「学び合おう」では、巻末に対話シートが付属し、問題解決のために考え方を高め、表現の仕方を練り上げ理解できるようになっています。「大切な見方・考え方」を配置し思考を助け、問にタブをつけ、問の意図を明確に

して思考力等を育成できるようにしています。「数学マイトライ」では「暮らしと数学」など様々な場面での数学の活用例を豊富に紹介しています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「数学」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 数学というのは、中学生になって凄く難しくなると思うのですが、やはり躓いてくる部分というのが中学校1年生で出てくるような気がします。そういった中で、数学を何故学ぶのかということが、子供達が凄く感じるのだと思います。例えば、ジェットコースターのスピードみたいなものが課題に出てきますが、子供にしてみれば、そのスピードが何なのだろうか、学ぶ意味があるのだろうかと感じたりするのではないだろうか思ったりします。その中で、私が良いなと思ったのは、これを動画で見せている教科書がありまして、渋滞はなぜ起こるのかですとか、ドミノのスピードを競ったりですとか、やはりそういったものを見せながら、生徒が数学に興味をもっていくということはとても大切なことだと思いました。この数学の授業においてこのQRコードですとか、そういったものの活用というのはどのぐらいのものを考えているというのはございますでしょうか。

(村田正則 数学科専門部会長) 現在使っている教科書にはQRコードはございません。今使用しておりません。ただしデジタル教科書が入っておりまして、その中にシミュレーションや動画が配置されておりますので、授業の流れに応じて、今は教師主体でそちらを流しております。ただし、これからの教科書は、全ての教科書会社にQRコードが提示されておりますので、子供達が主体的に、自分からそこを視聴することができる、自分の理解度に応じてじっくり見たり、さっと流したり、いろいろ活用できるという特徴があります。

(内田みどり 委員) 授業の中で活用していくということも考えるわけですね。

(村田正則 数学科専門部会長) はい。ただこれから上尾市はパソコンが導入されますので、そのパソコンが導入されれば、それを使ってQRコードが読み取れるということは、連絡いただいておりますので、授業の中で、今まで教師が主体となってやっていたところを、生徒に任せる形で学習を進められると考えております。

(大塚崇行 委員) 先程説明いただいた中に、啓林館の中で、前編が「みんなで学ぼう」、後ろからが「自分で学ぼう」ということで、家庭学習に使うと言われていました。二つに分かれています。授業の流れの中で、どのようにこの後ろの部分を流れの中で進めて行くのかなと思っていましたが、別のものとして、授業の中で、流れではなくて、この部分は家でやってくださいとするということだと捉えてよろしいでしょうか。それともうひとつ、別冊ノートがついている会社があったのですけれども、それも家庭学習を主に考えるのでしょうか。その辺りはいかがでしょうか。

(村田正則 数学科専門部会長) まず別冊ノートのところからご説明いたします。別冊ノートは、他者で言えば一つの教科書の中に入っているものを取り出して別冊にしている形ですので、どの教科書会社も同じように、発展的な問題を扱います。それについては、家庭学習というよりは、授業の中で扱う形になると思います。それから先程の啓林館につきましては、明らかに前から授業用、後ろからめ

くっていった家庭学習で出来るというかたちに明確になっています。ただし、他の教科書もやはり授業の中で学習を進めるにあたって、家庭で学習できる流れが、きちっと間、間に入っておりますので、各教科書会社、同じように工夫されて特徴があると考えております。

(小池智司 委員) 教科書の中で、運動場のトラックのスタート位置をずらしていくというのが、式の計算の前に載っていて、そこから次の式の計算というところで、東京書籍さんは、それを基にして次の式の計算に繋げていくという構成になっていて見ていて分かりやすいと感じました。同じことをもう1者、そこはその後の構成がまるっきり違うものになっていました。先生が生徒に教える場合、東京書籍さんのように、一つの問題から次の問題につなげていくという方が分かりやすく良いのかなと思いました。私としては、そういう方が分かりやすく良いと思いますが、教科書として見ていくと、それを見ていけば、もっといろんなデータを考えるというふうになってきてしまうのかなと思います。例えば、啓林館さんは、もう少し難しいような感じがします。数学を小学校の算数から中学校の数学に変わって、それが高校に行くと数1とか数2とか変わっていきますが、中学校の段階で、数学というものを計算やそういうものを繰り返し何回もやって身に付けて行くような感じになると思うのですが、そこで嫌になってしまうと上に繋がらなくなってしまいます。教科書として使うとしたら、そういう分かりやすくなっている教科書を選定して、先生も説明しやすいものを選んで、生徒に与えた方が良いのか、それとも先生の補足があって、もうちょっとこうだなあという教科書を使った方が良いのか、どちらの方が良いのかと思いますがいかがでしょうか。

(村田正則 数学科専門部会長) 教科書は、与えられれば、決まった教科書を使ってまいりますが、その都度、教師が向かい合う生徒の状況が変わります。その生徒の状況によって、やはり扱い方が変わっていくのかなというのは感じているところであります。どうしても数学は、興味・関心がわからない部分があります。先程おっしゃられた通り、身近な題材を導入で扱って、そこから興味・関心を引き出して内容に入っていくという流れは、たぶん1者だけではなく、他もやっております。またそれが無い場合でも、教師が教材研究を進めまして、必ず興味・関心を引くように、教科書の後ろの方に必ずありますので、それを題材として用いるという形で、多分どの教科書を使っても、教師の方が、教材研究を進めながら、興味・関心を高めていくように、授業を進めるというふうを考えております。

(中野住衣 委員) 今までの話の中にも出てきましたが、基礎、基本を定着させるのに、とても分かりやすく良い教科書だなと思うものがありました。また、ちょっと難易度が高いのだけれども、例えば日常生活で、数学が活用できるような教材を、いろんな場面でちりばめて出てきており、この教科書はとても面白いな、特に数学が得意な子にとっては、こういう教科書は良いなと思ったり、随分違いがあるなと思いました。そうしたときに、今説明がありましたが、1時間の中で難易度ということで、ここのところは課題を変えてグループを作って学習するような、特に中学校は教科書の扱いの中で、そういったことはあるのでしょうか。質問です。

(村田正則 数学科専門部会長) 子供が学習するにあたって、確かに力の差がありますので、それを学習しやすくできるように、教師としては教材研究をしまして、ヒントを与えるとか、問題を別の形で提出するとか、工夫をして導入してまいります。教科書をポンと与えられた段階で、確かに、少しレベルの高さやそういう差はございますが、それは授業の中で、十分補っていけるものだと考えています。

(中野住衣 委員) 個々に手立てを講じて、その場で指導支援していくということですね。あとよろしいでしょうか。何者かが、一般的に最初に導入があって、一つの問題をやった後に、例題をこなして、問題というふうに、それぞれ展開をしている中で、その例題のところに、これはこういうふうにして求める問題、今度はこういうことで求める問題ということで、見出しというか、タイトルがついているところがありました。これは自分で、家庭でもう一回復習をしたり、自主的に予習したり、そういうときに、例題にタイトルが有ると無いのとで随分違うなと思いました。それについては何か話題に出ましたでしょうか。

(村田正則 数学科専門部会長) 各教科書会社、いろんな工夫をされているうちの1点でございます。先ほど説明させていただいた中でも、タイトルということで、分かりやすさという部分で取り上げさせていただきました。数学の一般的な問題は、次の計算をしなさいという形で、どういう計算なのかは書いてございませんので、このタイトルは、ひとつの有効な、分かりやすさに繋げるひとつの手段だと思っております。

(中野住衣 委員) わかりました。ありがとうございました。

(内田みどり 委員) いままで数学の教科書には、必ず計算の別冊のものを中学校で使っていたと思います。これからの教科書についても、全者そういったものを使うのか、例えば啓林館さんの場合ですと、後ろについている訳ですけれども、啓林館さんで、もし使用した場合に、別冊みたいなものは使うのでしょうか。

(村田正則 数学科専門部会長) 普段、授業の中で、教科書だけでは足りないといいますが、補足するために、問題集を購入しておりますが、同じ教科書会社の問題集を使う場合もありますし、全く違うものを使う場合もあります。それは決まった形はありません。いろんなものを見比べながら、今の生徒の実態に合わせて、この会社の問題集という形で選ばれていきます。

(内田みどり 委員) 教科書と連動させるということはあまり考えていないということですね。例えばこのページのこれを問題集で解くということではないという訳ですね。

(村田正則 数学科専門部会長) それはもう各教科書会社、必ずそのところが、連動するようになっていきますので、他会社の問題集を扱っていても、必ず連動出来るようになっております。

(細野宏道 教育長職務代理者) 先程、小池委員からも算数から数学へというお話がありました。また内田委員から、数学を学ぶ意義はというお話もありました。実は私は数学を生徒が学習をするのに、子供達の頭の中はどうなっているのかなと思うことがあって、子供の頭の中にフローチャートが出来れば良いのだろうなと思っています。例えば、人間が走るときに、ある人は100mを何秒で走る。ある人は100mが何秒。それが何かと言ったら速度の傾きになるのかなと。それをそういうふうにかんがえることができるようになれば、それを式という形で数学という学問を学んでいく。そうすると先程ある章で、これは何々について学びますよという記載をされている教科書がありました。そういうことで、そういうことをわからせながら、学習をさせるのが良いのか、それからもう一ついろんな学習をするときに、星マークで類似問題を一杯載せている教科書があるのですけれども、そういうことをやって慣れさせて、子供達の頭の中にそういうことを考えていくステップを作らせる。それによっ

て数学を学ぶ意義を実感でき、それが次のステップに進んでいくということで、それがどういう方が
良いのか。二つの質問です。

(村田正則 数学科専門部会長) 1点目につきまして、今これから話題になっている、主体的、対話的、
深い学びについて、主体的という部分については、見通しをもって学習を進めるということが、とて
も大事になってきます。なので教科書のスタートのところに、何について学びますよという形で、こ
れからの学習の内容を示すことは、非常に重要であると考えます。それから先程の問題についてです
が、どの教科書も同じように、例題があり、例題に即した問題が次のところにあります。それで、そ
れをまた発展させた形で、補充問題が章末にあったり、巻末に用意されたりしているという形で、そ
の問題の難易度によって、段階を作り、学習が進むようになっております。

(細野宏道 教育長職務代理者) 教科書の会社によって、難易度が全く違うと思います。数学はステッ
プバイステップで、小学校の加減乗除から、1足す1から始まって、掛け算、割り算があり、1次関
数があり、2次関数がある。どんどんどんどん進んでいって、ひとつ前のステップや、いくつかのステ
ップが分からないと、この辺が理解できないとなると、最終的に数学が大嫌いというふうになると
思います。そうするとどのようなレベルの問題を子供達に解かせるのかというのは、先程先生が、個
人によって違うというふうに発言をされましたけれども、教科書によっても、どの辺のレベルを目指
している教科書なのかなと、実は教科書によってあることだなど思っているのですが、それは専門部
会で、公教育ですので、平均点を取る生徒もいるし、届かない生徒もいる、教科書がほんの10分で
終わってしまって、もうやることが無いという生徒もいるのは事実なので、その辺はやはりどうい
うものを選ぶのかと議論は専門部会でされたことはありますか。

(村田正則 数学科専門部会長) そのこのところにつきましては、専門部会の話題には出ておりません。
ただし、おっしゃられました通り、難易度というのはございますが、新学習指導要領の目標に照らし
合わせまして、やはり基礎は例題から入り、必ずそういう形で、どの教科書会社も、必要と、目標と
するところの内容については、きちんと基礎基本から押さえてあります。ただその先の発展問題につ
いては、もしかしたら、多少各教科書会社で工夫があるとは思いますが。

(細野宏道 教育長職務代理者) 先程フローチャートというお話をしましたが、数学というのは頭の中
でどう考えていくのかというのが、なかなか見えづらいと私は思います。例えば、円の内接の角度が
どこになっても変わらないというのは、QRコードなどのメディアを使うと、大変分かりやすく子供
達が理解できると思います。そうすると各教科書に載っているQRコードで、どんなことを教科書と
しては載せられない、補助教材として、各教科書の会社が載せているかというのは、検討されました
か。

(村田正則 数学科専門部会長) QRコードについては、全者が載せておりますので拝見いたしました。
子供達にとって学習を進めるうえで一番苦しいところは、例えば数学の例でいえば、点が動いていく、
それによって、軌跡の問題なのですけれども、動いていった時にそれを捉えて解いていくという非常
に苦しい場面がございます。それを先程のQRコードで、動画やシミュレーションを使って、段々点
が移動していく様子から、それが分かりやすくなるように、そういう工夫を各者、どの会社につい
ても工夫されていると思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) わかりました。以上でございます。ありがとうございました。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「数学」の質疑を終了いたします。続いて「理科」の説明をお願いします。

(佐々木智美 理科専門部会長) 理科についてご報告いたします。理科につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、単元の導入部で、「これまでに学んだこと」「この単元で学ぶこと」で既習内容とのつながりを示し、学習意欲を喚起するようになっています。また、章末には「課題」「結論」が設定されていたり、「学んだことのチェック」が設けられていたり、「Before & After」を活用したりすることで、生徒が学習の見通しをもったり振り返りを行ったりすることができるようになっています。観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点を示しており、自らのまとめ方により、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成につなげられるようにしています。読み物「つながる科学」等で、日常生活や社会・環境など実生活との関連を意識させるようになっています。

大日本図書は、単元の導入部で、「これまでに学習したこと」、「これから学習すること」を示し、学習課題を明確にしています。章末・単元末には、章の「まとめ」や演習問題により、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができるようになっており、終章の「課題を見つけて探究しよう」では、生徒自ら課題解決学習に取り組めるようになっています。観察・実験では、目的・着眼点が、示され、主体的に問題を見出せる構成となっており、また、結果から考察を考える視点を分かりやすく示すことで、思考力・表現力等が身に付けられるようになっています。科学的な読み物資料が充実しており、「くらしの中の理科」では、実社会の中で理科が身近に感じられるようになっています。

学校図書は、単元の導入部で、「学びのあしあと」「ふりかえろう・つなげよう」で既習事項を示し、章毎の「Can-do List」により目標を明確にし、生徒の学習意欲を喚起するようになっています。観察・実験では、その流れや結果の例示があり、レポートの書き方等、自らの考えをまとめられるようになっており、毎時間の学習課題、見方・考え方を明らかにし、学習における目的意識をもたせるための工夫が図られています。「サイエンスカフェ」で学習内容と関連する事象を取り上げ、章末の「学びを日常にいかしたら」では日常生活との関連を学びながら、思考力・判断力・表現力等の育成につなげることができる発展的な学習の演習問題になっています。

教育出版は、単元の導入部で、「学んでいくこと」「これまでの学習」「思い出そう」を示し、既習事項との関連や学習の見通しをもたせ、学習意欲を喚起するようになっています。単元末の「要点と重要用語の整理」で基礎的な知識を復習するようになっています。観察・実験では、結果と考察のまとめ方の例を示しており、基本事項の確認と共に思考力・判断力・表現力等を育成できるようになっています。また、観察・実験の結果を表に記入できるようになっており、結果を具体的に確認した上で、考察へ繋げるようになっています。「ハローサイエンス」で科学の話題を紹介する写真・イラストや読み物を掲載し、科学と日常生活との関連や科学を学ぶ有用性を考えるようになっています。

啓林館は、単元の導入部で、学習内容に関連する事象を活用して学習意欲を喚起するようになっています。また「サイエンス資料」により、実験器具等の基本操作を示しています。各章に「つながる学び」「思い出してみよう」を示し、既習事項との関連を想起させています。単元末には、「学習のまとめ」「探Qクラブ」で基礎的な知識を復習するようになっています。観察・実験では、予想から考察までの一連の流れが示され、更に「探Qシート」の活用することにより、主体的・対話的に課題解決に結びつける力の育成を図る学習活動につなげることができるようになっています。読み物「〇〇ラボ」で、日常生活や社会・環境など実生活との関連を意識させるようになっています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。ただ今「理科」について説明していただきました。それでは説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 理科の教科書は、とても写真がきれいで、凄く見易くなっているなど驚きました。紙自体の素材も良くなっているとは思いますが、写真がとてもきれいに扱われていました。その中で理科を学んでいくうえで、実生活と結びつかない部分が多かったんですけども、コラムなども出ており、凄く良かったのですが、1者、縦長な教科書となっており、保護者的には余り扱いが良くないと感じました。そういったことの話し合いはございましたでしょうか。

(佐々木智美 理科専門部会長) そうですね。A4版の縦の長いスタイルになりますけれども、他の部分で、先程実験観察のところは、全ての教科書会社で入れさせていただきましたが、その流れが1ページに収まるような使い勝手の良さというは見られました。ただ、他の教科書会社さんも流れが途切れるということではありませんので、ただ1ページでそういった収め方ができるのかなという工夫は見られました。

(大塚崇行 委員) 各教科書、単元の初めに、これから学ぶこと、この先の見通しというのがありますが、どれくらいの時間をかけてやっていくのか、詳しくやっていくのか、それともさっと流してしまうのか、ちょっとわからなかったのが、どのくらい力を入れて、最初の部分の説明をされているのかなということを教えていただけますか。

(佐々木智美 理科専門部会長) これまでの既習の学習との関連というのは、今、子供達の学習の始まりにおいて、重要なものとして捉えられています。小学校での学習内容を想起させることから、この後の見通しをもたせるということについては非常に重要かと思えます。先程内田委員様からもございましたが、実生活とのつながりがなかなか薄い年代ではありますので、そういったところをしっかりと子供達の中に定着をさせながら、この先の見通しをもたせるということが非常に学校としては重要な部分として捉えています。

(小池智司 委員) 理科に限らないのですが、各者、今QRコードがついていて、理科、特に実験などをQRコードで読み取って見ると凄く分かり易くて良いと思えました。上尾市も来年からは、パソコンが一人一台ずつになってくると思うので、その辺りを生徒さんは利用して、いろいろと確認できると思います。QRコードも教科書会社さんによって呼び方は違うのですが、ディーマークであったりとか、学びリンクであったりとか。最初にそのディーマークとかを読み込んで、今履修している部分の章の内容を開いて、そういう実験とかを確認できる場所もあれば、その教科書の章毎にQRコードが付いていて、そこへ行って指定できるというところがあります。これらの使い勝手の良さというのは、今後利用していく上で、どちらの方が使い易いというのはあるのでしょうか。

(佐々木智美 理科専門部会長) 実際に活用していく場面というのが、まだ我々も手探りなところもあります。それぞれの使い勝手の良さというはあるかと思えます。それぞれにQRコードが付いているのであれば、すぐにその場面がリンクさせることができますので、手元の、先程のパソコンで確認をすることができると思います。また、関連項目から探っていくことについては、やはりそれはこ

れまでの既習学習ですとか、この先の見通しをもたせるというところでは、やはりそういった前後の繋がりというのは、非常に大事になってきますので、それぞれの教科書会社さんの取り扱いによって、その点は差はないというか、支障はないと考えております。

(中野住衣 委員) 理科離れという言葉をよく聞きますが、今の教科書は、問題場面があって、課題を明確にしながらか、観察、実験によって、考察、結論、そして次のステップと、大事な論点から繋がって行って、とても一つ一つの扱いか丁寧であると感じます。更に、丁度中学生ぐらいの登場人物が出てきて、考えている事や、話し合っていることが吹き出しで出てきて、何かこう学習の方向性みたいなものが、随所に分かるような手立ても講じられている内容になっていると思いかしました。そういう教科書になっているということで、なんだかよく分からないまま、実験に参加しているのとは違いか、目的意識をしっかりと持つか、その事象にちゃんと向き合つか、自分の力で観察、実験をして、科学的に探究していくという能力を養っていくという部分では、こういう丁寧な学習過程が教科書の中に出てくるということは、有効に役立つと思いかしました。その辺の教科書の流れについて、何か話題になりましたか。

(佐々木智美 理科専門部会長) やはり我々理科の教員としては、実験、観察をもって、子供達に会得させていく、習得させていくというのを非常に重要視しています。そういう意味では、どちらの教科書会社さんも、こういった一連の流れ、予想を立てながら見通しを持つ、そして実際に自分たちで、操作が可能かどうか、出てきた結果を見取りながらそこから、考察、そして次の学習に繋げていく、この辺の一連の流れというのは、どちらの教科書会社さんも、非常に丁寧に取っ扱っていただいているということで、その辺は部会の中でも協議いたしました。

(中野住衣 委員) 吹き出しで、科学の見方という、ひと言そこでアドバイスがされている。そういったとても実験の方向性に生きてくるような工夫が、いろいろな会社でされていました。レポートの書き方もきちんと提示してあったり、まとめ方もある程度書いてあったりということで、学習の流れというものを一人一人の生徒に、自分の問題意識を持たせて、探究していく力を育むような形になっているということを感じました。ひとつ質問です。インターネットを使ってみようというような事が書かれている教科書がありましたか、そういう場合、どんな形で授業をされるのでしょうか。

(佐々木智美 理科専門部会長) 幸いなことに、無線LAN配線を、中学校にも設置していただいておりますので、理科室にパソコンを持ち込んで、インターネットを活用することは可能です。一人一台というようになっていくようであれば、更にそういった環境も整えられていくと考えております。

(中野住衣 委員) 教材研究していく中で、「今日は皆さん、パソコンを理科室に持ってきてください」というようなことを伝えて学習する、そういう場面も出てくるということですね。

(佐々木智美 理科専門部会長) 可能であるとは思います。

(中野住衣 委員) わかりました。ありがとうございました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 実験に関して2点質問をさせていただきます。中学校のサイエンスとか理科は、実験があるということが大変大きな特徴だと思います。実験をするということは、ある事

象があって、それがこうだろう、こうなるはずだ、こうです、それを確認するために実験をします。それを何らかの方法、例えばレポートということで提出することになるのだと思います。子供達が仮説を立て、それを確認するために実験をする。それから最終的に、それらの一連のものが終わったときに、自分にとって分かるようなレポートを作成する。それは同時に、第三者に説明ができるようなものを書かないと駄目だと思うんです。これが最終的に、社会に出て役立って繋がっていくのだと思うんですね。1点目の質問は仮説を立てるということに関して、何か特徴的な教科書があったかどうか。2点目はレポートの書き方ですね。それについて、特筆的なものがあったかどうか。質問はその2点です。

(佐々木智美 理科専門部会長) まず最初の仮説を立てるということについてですが、先程中野委員様の方でも触れていただいておりますけれども、吹き出しですとか、会話形式のものでのヒントですとか、そういったもの、或いは枠組みがされていて、そのところで、そういったヒントのようなものが文章化されているもの、こういった形で子供達の仮説を立てるための手立てを講じている教科書会社があります。それをヒントにして子供達も自らの予想を立て、実験の仮説、設定に転じられていけると考えます。2点目のレポートの作成についてですけれども、こちらにも実際に具体的な解説と、それから実験結果、考察の仕方、そういったものを載せていただいている教科書会社さんもございます。ただ、全ての項目ではなく、いくつかのところでそういったヒントのようなものを提示していただいて、まとめの学習に繋がられるようなものがございます。それに基づいて、我々の方でも授業の中で指導していこうと考えております。

(細野宏道 教育長職務代理者) わかりました。ありがとうございます。

(池野和己 教育長) 私の方からも質問です。LAN環境が整った中で、今までの理科の授業の実験の仕方としては、班毎に取りまとめる場合においても、前で発表する場合においても、今でしたら大型液晶モニターに、班で、全てのものをモニターに投影することができますよね。その辺については、専門部会の中で、何か協議はありましたか。

(佐々木智美 理科専門部会長) その点については、協議をしております。

(池野和己 教育長) もう1点質問です。今度は力学の部分についてです。中学校の理科の教科書の扱いとしては、私は特に「2力の釣り合い」について、これが高等学校に行くと物理だとかに発展していくわけですが、その力の表し方が、私が見るとどの教科書も、果たしてこれで科学的思考の基礎を中学校で扱うにしては、力の表現の仕方が曖昧だなと思いました。作用点、果たしてそこにあるかどうか、つまり「2力が釣り合うかどうか」ということがしっかりとわかってないといけないのに、示されている図を見ると、何故その斜面の中で物体が動き出していくのかというところ、垂直抗力とか重力の分力のところの図などは、私は一番大事だと思うのです。やはり教科書によって、このぐらいであれば合格点かなと思うものと、明らかに作用点がずれていて、科学的な思考力をきちんと育成するのであるならば、中学生はそれぐらいに分かっていけば良いよというのではなくて、やはり作用線がずれているということになれば、この「2力は絶対釣り合わない」訳で、だけどの教科書見てもその辺が、私はまだ曖昧だなと思いました。そのようなことは余り議論にはなりませんでしたが。

(佐々木智美 理科専門部会長) 専門部会の方では、そこまで踏み込んだ協議の方はしておりませんでした。

(池野和己 教育長) やはり理科が、分からなくなってしまう一つの理由として、その辺をきちんと子供達に、論理的に教えるということが大事だと思います。これからはLAN環境が整って、オンライン教育を進めていくということになれば、そうしたことも、教科書に載っている図以外のものでも、いろいろ活用できると思います。そういうものが今後また教科書に求められているのかなと思います。

(中野住衣 委員) 1点質問です。先程、縦長の教科書の話が出ました。私は触っていて、縦長で幅が無いので、使うのにすごく扱い易かったです。他の教科書は、横に広くて、重いので、結構扱いにくいです。ただその細長いという形は、家庭から学校への持ち帰りとか、学校についてからの保管だとか、いろんなときにそういった支障がある形状だとかはありませんか。

(佐々木智美 理科専門部会長) 小学校と違ってランドセルという形ではありませんので、かなり大型のバックで、子供達は持参してまいりますので、B5版から少し出たA4版のサイズになりますので、さほど支障はないかと思えます。しまう場合であっても、その点で子供達が困るということは無いかと考えられます。

(中野住衣 委員) わかりました。ありがとうございます。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「理科」の質疑を終了いたします。ここで、午前の協議をいったん終了し休憩といたします。再開は、午後1時15分からで、音楽から行いたいと存じます。それから、傍聴の方へ事務局から連絡がありますので事務局は説明をお願いします。

～ 事務局説明 ～

～ 休憩 ～

(池野和己 教育長) 会議を再開します。午前中に続きまして残りの教科につきまして協議を進めます。「音楽」の説明をお願いします。

(石井都 音楽科専門部会長) 「音楽（一般）」についてご報告いたします。音楽（一般）につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

教育出版は、学びのねらいと学習活動、関連楽曲などが示された「学びのユニット」により学習指導要領を適切に扱えるように工夫されています。音楽記号や用語の読み方が、巻末の楽典のページで確認することができます。言語活動の充実を図り他者と協働し対話的な活動が展開できるようになっています。「何が同じで、何が違う？」では、音楽の見方・考え方を活用して特徴をまとめ比較しな

がら整理できる内容になっています。鑑賞教材や歌唱共通教材の資料が美しいビジュアルで現され、学ぶ楽しさが広がってきます。我が国の伝統音楽の良さを味わうことができるように鑑賞と表現の活動が関連づけられています。「まなびリンク」から学習に役立つ情報を WEB サイトから得ることができます。SDGs の視点に立った構成が工夫されています。紙面の構成にユニバーサルデザインを取り入れています。

教育芸術社は、目次に続くページに学習指導要領の内容と各教材との関連が視覚的に確認できるようにまとめられています。各教材のページに共通事項は文言で記載し新出の用語や記号は分かりやすく取り上げられています。「深めよう！音楽」では、キャラクターが主体的・対話的な学習のサポートをしています。生徒が自分の考えをワークシートに書き込み、整理しながら学習を進めることができます。音や音楽が生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値を持つのかを生徒が意識的に考えるページを設けています。郷土の音楽文化に親しむことができるように中学生の活躍を紹介しています。ICT 機器を使って動画や音声などの情報を視聴、閲覧することができるように工夫されています。色彩デザインにおいて、特別支援教育やユニバーサルデザインの視点が反映されています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「音楽（一般）」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 音楽について、ピアノなどの楽器を習っている生徒は音楽に親しみやすく授業を受けられると思いますが、あまり音楽に携わっていない生徒に対しては、教科書を使って勉強するにあたって、親しみやすさという視点が必要に思いますが、そういう視点からみた教科書の違いについてはどうでしょうか。

(石井都 音楽科専門部会長) その点につきましては2者とも研究がされておりまして、様々な音楽文化に触れながら、親しみを持ち、生活を明るくするような態度を育成できるよう工夫されておりまして。

(中野住衣 委員) 1者は音楽の基礎を身に付けていきながら、思考力や判断力を養う「深めよう音楽」という部分がいいなと思いましたが、もう1者の方は、それが読み取れなかったところですが、そういう部分はありましたでしょうか。

(石井都 音楽科専門部会長) もう1者につきましても、音楽の見方・考え方を活用して言語活動を充実させているという内容になっております。

(大塚崇行 委員) 1者の方にはICT機器を活用して、動画や音声を視聴・閲覧することができるQRコードが充実しているところがありますが、その使い方のイメージをお伺いします。

(石井都 音楽科専門部会長) QRコードは読み取って得た情報により、学習内容をさらに深めようということになっております。学校のパソコンなどで読み取り、授業で活用していくと考えております。

(小池智司 委員) 1者の方にはマイメロディという3年間を通してオリジナルの曲を作るという項目がありますが、思考力や判断力を養う点で生徒がオリジナルの曲を作るというのはすごくよいと思

ます。そういう項目の最後に、発表をしたり皆の前で披露したりするような場は想定されているのでしょうか。

（石井都 音楽科専門部会長） 各学校の対応によるかと思いますが、両者とも主体的・対話的な学習の内容を取り入れていますので、授業によっては発表という形も行われるものと思います。

（中野住衣 委員） 教育出版の説明の中で、まなびリンクがありました。そのWEBサイトでは、「見る」「聴く」「記録する」という内容がありますが、その内容やそれをどのように活用していくのか伺います。

（石井都 音楽科専門部会長） 各学校によって対応が様々になるかと思いますが、学習の内容として「見る」「聴く」「書く」は重要なポイントのため、それを補助するような形で活用していくことと考えております。

（細野宏道 教育長職務代理者） 自分たちが音楽の基礎を勉強することもありますし、自分たちで音楽を奏でるということもあります。本物の音楽に触れて、芸術として音楽を理解することが重要だと思いますが、教科書では実際の音は出ず、奏でることもないという点について、最近はICT機器を使って、本物の世界を聞くことができるようになってきましたが、音楽の教科でICT機器のさらに活用できるとよいというような専門部会での議論はあったのでしょうか。また、本物に触れるということを重視したほうがよいという内容の議論はどうでしょうか。

（石井都 音楽科専門部会長） 専門部会では取り上げられていませんでしたが、各学校の担当教諭がそれぞれ工夫し、生徒が豊かな音楽に親しめるよう取り組んでいると聞いております。

（池野和己 教育長） ありがとうございます。続きまして、「音楽（器楽合奏）」の説明をお願いします。

（石井都 音楽科専門部会長） 「音楽（器楽合奏）」についてご報告いたします。音楽（器楽合奏）につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

教育出版は、見開きごとに学びのねらいをスタート、まとめの曲をゴールと設定し、学びのユニットとして、学びのねらいとゴールが設定され、学習を見通せる構成になっています。唱歌全般をまとめたページ「唱歌について」が提示されています。「何が同じで、何が違う？」では、管楽器と弦楽器について共通性と固有性を考え、特徴を理解し書き込めるようになっています。自分の考えなどをまとめ、協働的な活動が展開できるように工夫されています。演奏する楽器や比較鑑賞する楽器を見開きで示し、箏と篠笛の家元のメッセージを掲載しています。巻末には、リコーダーの運指表やコード表、打楽器の図説が提示されています。SDGsの視点に立った構成の工夫や紙面の構成にユニバーサルデザインを取り入れています。「まなびリンク」から学習に役立つ情報をWEBサイトから得ることができます。

教育芸術社は、学習指導要領に示された三つの資質・能力と学習内容と教材を示した「学びの地図」となる内容が配置されています。さまざまな楽器の奏法の説明が分かりやすく手順を追って取り組めるようになっています。和楽器の表現をより深めるための唱歌の活動、演奏者の対話など、深い学びを実現するための手立てを充実させています。音や音楽の生活や社会、文化との関わり方や、意味や

価値について、意識的に考えるページが設けられています。在学中や卒業後も楽器演奏を含めた音楽活動のためにコード表が資料として掲載されています。ICT 機器を使って動画や音声などの情報を視聴、閲覧することができるように工夫されています。色彩デザインにおいて、特別支援教育やユニバーサルデザインの視点が反映されています。

これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）ありがとうございました。「音楽（器楽合奏）」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（内田みどり 委員）1点目は、太鼓、尺八、ギターなどのコード表が出ていましたが、中学校でそのような楽器を揃えているのかということです。2点目は、生徒が演奏したら楽しいであろうと思う親しみやすい楽譜が掲載されていますが、この点について、生徒にとっては親しみやすいと思いますが、教育者側から見てそれが音楽科としてよいことなのか、もっとクラシックなどを取り入れたほうがよいというような議論がありましたでしょうかという2点について伺います。

（石井都 音楽科専門部会長）1点目の楽器の整備につきましては、学校により状況が異なりますので、必要なものが足りない場合は他校から借用するなどして対応しております。2点目の親しみやすい曲がどうかということにつきましては、専門部会の中ではクラシックがよいのかという議論は出ておりませんが、親しみやすい曲があると生徒は入りやすいという意見はございました。

（中野住衣 委員）扱っている楽器の数は2者で非常に差があります。発達段階の中学校生徒に指導する際に、楽器の数により変更する内容があるのか伺います。

（石井都 音楽科専門部会長）楽器の数に関する指導上の議論はありませんでしたが、主となるギター、リコーダー、いくつかの和楽器や打楽器について、必要なものについては学校で指導しているということでした。また、三味線については、口三味線で指導したりする学校もございます。

（池野和己 教育長）よろしいでしょうか。ありがとうございました。以上で「音楽」の質疑を終了いたします。続いて「美術」の説明をお願いします。

（豊田好伸 美術科専門部会長）美術科についてご報告いたします。美術につきましては、3者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

開隆堂出版株式会社は、各題材において、「知識や技能に関する目標」を示すと共に、必要に応じて「美術の用語」を提示するよう工夫しています。また、各題材の「学習の目標」に「発想や構想に関する目標」を示すと共に学習を深めるためのポイントや発想・構想の方法、学習の進め方のヒント等を必要に応じて示す工夫をしています。関連ページへのリンクを設けてあり、活動に関する資料ページを提示することで、自主的にしかも有効に活用できるようになっています。それぞれの学習活動の題材ページの入り口には「絵や彫刻で学ぶこと」「デザインや工芸で学ぶこと」と題する扉を置き、各学習活動の意味や目的を考えることができるようにも工夫されています。

光村図書出版株式会社は、各題材の導入に鑑賞を位置づけ、鑑賞目標の設定をしています。また、表現の説明や作者の言葉などから、造形的な視点を捉えられるよう工夫をしています。全ての題材に、生徒たちが発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てを示し、生徒が主体的に学習することがで

きるよう表現と鑑賞の内容をアイコンで示し見やすくしています。また、学びの流れが一目で分かるような工夫にもなっています。導入として、特設ページを設け、生徒が3年間を見通し、これからの学習に期待感がもてるよう工夫しており、題材の随所に、他教科との繋がりを示すコラムを設けています。美術での学びが他教科とどうつながるのか、実感をもって理解できるよう工夫されています。

日本文教出版株式会社は、各題材の全てに、造形的な視点で捉えた解説文が掲載され、表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮されています。また、作品説明や造形的な視点の補足書きからも捉えられるよう工夫されています。生徒が考えを伝え合ったり、友達と相談したりしながら活動を行う様子を紹介し、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるよう工夫されています。

「この教科書で学ぶみなさんへ」のページにおいては、美術の学びに向かうメッセージを設け、目標や考え方を共有し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されています。社会問題と地域文化、美術以外の分野の著名人も多く取り上げて、美術での学習が社会とつながっていることを示す工夫をしています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「美術」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(中野住衣 委員) 1者だけ三部冊構成であり、この理由については発行者の説明も読みましたが、実際に指導する学校現場としては、この三部冊構成についてはいかがでしょうか。

(豊田好伸 美術科専門部会長) 専門部会の中でも、二部冊構成がよいのか三部冊構成がよいのか議論になりましたが、各学校の先生の指導方法にもよるということもあり、内容としてはどの発行者のものも遜色ありませんので、あまり問題にはならないということとされました。

(大塚崇行 委員) 三部冊構成のものは2・3年が上下に分かれており、中身はどこも同じで、最初に絵や彫刻があり、デザインや工芸、学びを支える資料の流れとなっています。三部に分けるのであれば、なぜ1年、2年、3年という学年別に作成されなかったのかという点について伺います。

(豊田好伸 美術科専門部会長) 先生の中には、2年と3年をつながりと考えて指導していく場合もあり、合冊の方がよいという考えもありますが、専門部会の中では分冊及び合冊それぞれの良さがあるということとされました。

(細野宏道 教育長職務代理者) QRコードについては1者に掲載がありません。音楽と同様に実物を見て、真の美術を鑑賞する点が重要と考えます。教科書は厚ければそれだけ資料的な価値が上がりますが、学校と家とを生徒が往復することを考えると物理的な制限があります。著作権等の課題はあると思いますが、QRコードを利用して自分で鑑賞したり学習したりすることができると思います。QRコードがない教科書はまずいのではないかと思います。その点についてはいかがでしょうか。

(豊田好伸 美術科専門部会長) 専門部会ではQRコードがないことによる不具合については話し合われていません。ただ、今後QRコードがさらに活用されていくであろうという意見や、それぞれの教科書に掲載されている図版等で代用できるであろうという意見、QRコードを用いずともインターネットで自ら調べることも可能であろうということから、教科書にQRコードが掲載されていないとい

うことについても議論にはならなかったということでございます。

（細野宏道 教育長職務代理者）自分で学習していく手立ては様々ありますので、QRコードを使ってそこから入っていく必要は必ずしもなくて、情報は各自で集められるであろうということですね。わかりました。

（中野住衣 委員）教科書を読むと、「表現」と「鑑賞」の2領域があり、創造活動は生徒にとって喜びを得るものであり、様々な活動を通して美術を愛する心情を養われていくものと思います。各者の教科書の冒頭で、日本文教出版のものは「表現」と「鑑賞」が一緒に出てくるページが多くありますが、開隆堂のものは「表現」のページと「鑑賞」のページで分かれているという違いがあります。

「表現」と「鑑賞」を一体的に捉えて指導することと、別に捉えて指導することでは、指導する際に違いが出てくるのか伺います。

（豊田好伸 美術科専門部会長）本来どの指導でも「表現」と「鑑賞」の一体化は言われているところであり、各者とも一体的に捉える中で、教科書として掲載するときの配置などでその切り口は異なりますが、それは各者の創意工夫で違いが出てきているところでございます。掲載上一体的に表記されていなくても、教員の工夫で「表現」と「鑑賞」の一体的な指導を行っていくものと考えます。

（中野住衣 委員）発行者によっては、「鑑賞」を大きく取り扱われるなど、とりわけ「鑑賞」が重要視されてきていると感じています。生徒の美術を愛する心情を養うなかで、「鑑賞」はどのような点で大切なのか伺います。

（豊田好伸 美術科専門部会長）各者とも「表現」と「鑑賞」を一体的に指導する工夫をされています。教員は生徒に「表現」を指導しますが、この生徒が「表現」をすること自体が「鑑賞」にもつながるという裏表の関係にあるという、何かを作り出すときには、作りながら何かを感じているわけで、「表現」と「鑑賞」は一体であるということに、表現するときには知識を集める必要があり、その際に「鑑賞」して得たものが生かされるということもありますので、自分で何かを表現をしながら何かを感じるということを繰り返すことが「表現」と「鑑賞」の一体化の面で非常に重要であるというように考えております。

（小池智司 委員）各者が掲載している作品の中では、生徒の作品が多いものもあれば、作家の作品が多いものもあります。同世代の生徒が作った作品に対するコメントも掲載されており、それに共感したり刺激を受けたりすることもあるかと思えます。教科書の中でも古い美術に重きを置いているものと近代美術のデザイン性に重きを置いているものもあるかと思えます。美術で生徒が技法を学ぶということの他に、デザイン性で面白みがある教材を使用して生徒の感性を高めていくほうがよいのか、昔からある古い絵画などの美術を学んだほうがよいのか伺います。

（豊田好伸 美術科専門部会長）各者とも見比べやすい配置であったり、大きめの写真や新しい写真を掲載していたりと写真や図版などのバランスが非常に工夫されており、偏った配置はないと考えており、どれがよいとは一概には言えないところでございます。教員がどのように生かしていくのか問われていくのかなという意見が出ました。

(内田みどり 委員) 「鑑賞」の仕方について、私自身が美術の鑑賞は難しいと感じています。「鑑賞」を指導するにあたり、どのような指導をするのか伺います。

(豊田好伸 美術科専門部会長) 美術館の絵画をどう観るかというときに、その作家の経歴を知らなければ鑑賞できないと考え、その解説などを含めて鑑賞する方もいらっしゃるかと思いますが、そのような指導をしないようにすることが大事だと考えています。つまり、そのような知識を度外視して自分自身が感じたことや思ったことをそれぞれの生徒がもてるということが鑑賞と捉えられる生徒を育成するということがとても大事だと考えています。

(内田みどり 委員) 絵画を見て「美しいな」と思う部分とともに、知識などを含めて教えていくことも必要だと思います。「美しい」と感じるだけでは指導としては不足していて、さらに深めていくためには、そういった知識や様々な作品に触れていくことが大切だということでしょうか。

(豊田好伸 美術科専門部会長) その通りかと思います。いろいろな作品をみていろいろなことを感じて、そのうえで自ら表現活動をしていくということの繰り返しだと考えています。

(細野宏道 教育長職務代理者) 生徒作品が大変多いものについては、「表現」と「鑑賞」を一体的に学ばせるということが冒頭に記載されています。生徒作品を多用している意図については専門部会で議論になりましたでしょうか。

(豊田好伸 美術科専門部会長) 具体的にはありませんが、身近な生徒作品に触れると、これなら自分もできるのではないかとより主体的に考えることで、生徒の活動意欲を高めようというねらいがあるのではないかという意見が出ました。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「美術」の質疑を終了いたします。続いて「保健体育」の説明をお願いします。

(松本壽男 保健体育科専門部会長) 保健体育についてご報告いたします。保健体育につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、4ステップ「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」で学びの筋道が見える構成です。基礎的・基本的な知識・技能の習得について、章末の学習のまとめに「確認の問題」を設け、内容の定着が図れるようになっていきます。思考力・判断力・表現力等の育成のために、「活用する」「広げる」活動を通して、知識や技能を実生活へ活かす方法を考えたり話し合ったりする工夫がされています。生涯にわたって運動に親しむ態度を育成するために他教科や生活と関連した内容も含まれています。また、主体的に学習に取り組む工夫として、巻頭資料「Dマークコンテンツ」に、QRコードが記されインターネット学習が充実しています。

大日本図書は、6ステップ「ねらい」「つかもう」「解決しよう」「深めよう」「まとめよう」「活かそう」の構成で丁寧な内容です。基礎的・基本的な知識・技能の習得について、資料も豊富で「トピックス」「ミニ知識」に知っておくと役立つ情報が記載されています。思考力・判断力・表現力等の育成のために、授業の流れにある「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」で様々な学習方法を取り入れ、生徒が主体的に考え、話し合いながら深く学べる工夫がされています。生涯にわたって運動に親しむ態度を育成するために各時間「活用して深めよう」や章末に「学びを活

かそう」が設定され、実生活に活用するために考えを深めたり、実践力を高めたりする工夫がされています。

大修館書店は、3ステップ「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」で構成され、主体的に取り組める内容です。基礎的・基本的な知識・技能の習得について、章のまとめの確認では、「観点別の問題」の最後に「学習の振り返り」という形式で構成されていて、学びの定着と課題が明確になっています。思考力・判断力・表現力等の育成のために、課題を解決するための方法や学び方、発表・提案の仕方が実写とともに具体的に丁寧を示され、生徒が主体的に活動できます。生涯にわたって運動に親しむ態度を育成するために、各単元で学んだ内容と生活を関連づけた例示が具体的に示されていて理解しやすいです。

学研教育みらいは、4ステップ「目標」「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」で構成され、学習方法が具体的且つ簡潔でわかりやすいです。基礎的・基本的な知識・技能の習得について、章末の「生活への活用」では、日常生活にどうかせるのか学んだ知識の習得確認ができる発問になっています。思考力・判断力・表現力等の育成のために、「課題をつかむ」や「考える・調べる」で自分の生活を振り返ったり、「実習」や「探究」等で実践的な学習を行ったりし、実生活に活かすための思考力・判断力等が高められる工夫がされています。生涯にわたって運動に親しむ態度を育成するために、章後半「探究しようよ」では、スポーツと健康について、現状と課題が簡潔にまとまっていて理解しやすいです。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「保健体育」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(大塚崇行 委員) 保健編と体育編に分かれており、東京書籍だけ保健編が先に記載されており、その他の発行者は体育編が先になっておりますが、そのことについて伺います。

(松本壽男 保健体育科専門部会長) 専門部会ではそのことについての議論はありませんでしたが、教科書にはページ数が記されていますので、どちらが先に記載されていても特に支障はないものと考えています。

(内田みどり 委員) これまで使用してきた大修館の教科書について変わった点があれば伺います。

(松本壽男 保健体育科専門部会長) 現在は大修館のもので、その前は学研教育みらいの教科書を使用していました。大修館については、導入が興味をもたせるような内容で、生徒は興味をもって授業に臨めたかと思います。また資料も豊富のため理解しやすく、復習の際に何を学んだかがよくわかる内容であったという意見が専門部会でありました。

(中野住衣 委員) 保健体育は、生涯にわたって運動を続けたり、健康保持増進のために何をしていくかという実践力を育てたりという面で、松本部会長の説明を聞いている中で、学研教育みらいのものが実践力につながるような内容が多かったように思いました。現在使用している大修館のものも実践力を育てるという面で様々な工夫がなされているということによろしいのか伺います。

(松本壽男 保健体育科専門部会長) 内容はどの発行者とも素晴らしいものであります。資料の工夫と

して4つの施策の中ではそのように見える部分もあったかと思いますが、体育の目標は日常の生活化であり、生涯にわたって運動に親しむ態度なので、教科書から興味が出て、他の教科や健康や運動などの生活の中で結びつけられるような内容に各者ともなっております。

（中野住衣 委員）保健体育で学んだ内容を生活へ活用を図って発展させる内容になっていると思います。東京書籍のものは巻末にインターネット依存症やインターネットのコミュニケーショントラブルを取り上げています。大修館のものは災害と環境の面から健康へ情報活用を図るということで、感染症の部分ではマスクの着用についても記載されておりました。学研教育みらいのものはスポーツの多様性や文化としてのスポーツを探究していくということで、とても興味深い内容となっておりました。大日本図書の場合は防災や交通事故、心肺蘇生法などの資料が大きく記載されておりました。それぞれ今日の課題になっている事項を取り扱っていることで勉強になりました。

（池野和己 教育長）他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「保健体育」の質疑を終了いたします。続いて「技術・家庭」の説明をお願いします。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）技術・家庭（技術分野）についてご報告いたします。技術・家庭（技術分野）につきましては、3者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍株式会社は、学習指導要領の目標を受け、原理・法則を理解したうえで問題解決を行う学習過程を繰り返して、学びを深めるよう構成してあります。知識及び技能の習得の工夫としては、科学的な根拠を基に基本的な知識の定着が図れるようになっており、技能情報も分かりやすいです。巻末に用語解説やSDGsのほか、プログラミング手帳が別冊で収録されています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、「問題の発見」「課題の設定」、考え方の例を示し、解決のヒントを与え、制約条件のもと技術の最適化について考える場面があります。実践的な態度の育成の工夫として、思考ツールや見方・考え方を働かせるための視点が整理され、切り抜きの「最適化の窓」があります。脚注に豆知識と、学習内容に関連するコラム、パラパラ漫画が掲載されています。最新の特集ページが豊富です。

教育図書株式会社は、学習指導要領の目標を受け、学習の流れを「見つける」「学ぶ」「ふり返る」の3ステップで構成しています。知識及び技能の習得の工夫として、一つ一つの具体的な題材を丁寧に解説しながら、製作を通して学べるようになっていきます。巻末に主なワークシートと、別冊で「技術ハンドブック」が添付されています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、「問題発見」「構想の検討」「構想の具体化」「設計のまとめ」の4つのステップで、じっくり考えさせています。実践的な態度の育成の工夫として、日常に生かされている技術に気付かせ、学びを通して技術を評価し、実社会における課題を考えさせています。地域の専門学科に進んだ「先輩からのメッセージ」を掲載して生き方につなげています。

開隆堂出版株式会社は、学習指導要領の目標を受け、動機づけから基礎・基本の習得、問題解決、評価・活用の流れで構成しています。知識及び技能の習得の工夫として、科学的な原理・法則が整理され、製作のための技能がページを増やしてまとめられています。巻末にコンピュータ操作やプログラミングの基本事項、伝統工芸、携帯電話のトラブル対策が収録されています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、問題解決の流れが示され、技術の最適化を検討する場面や、応用のための課題や考え方のヒントが掲載されています。実践的な態度の育成の工夫として、見方・考え方が学習指

導要領に沿って整理されています。コラムでは、実社会に視点を置いて学びを深める内容を、脚注には豆知識が、爪見出しに学習内容と関連する工具等の写真と名称が掲載されています。

これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）ただ今「技術・家庭（技術分野）」について説明していただきました。ただ今の説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（細野宏道 教育長職務代理者）世の中の情勢として、情報モラルについて各者が記載しておりますが、その強弱については違いがあると感じています。そのことについて専門部会での意見交換はありましたでしょうか。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）情報モラルの捉え方につきましては、各者とも違いがありますが、それぞれの切り口で授業を展開することはできるということで大きな差はないと考えております。

（中野住衣 委員）ものづくりを通して、生活の中で必要な知識と技能を習得するというねらいがあつて、実践的に生活していく態度を身に付ける非常に重要な教科であると考えています。生徒の経験や家庭環境などによってそういう力の差があるのではないかと考える中で、実践的な態度を身に付けるために各者が工夫している点について伺います。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）例えば、実生活をいかに見つめているかの差が大切なところであると思います。それと生活よりも広く捉えた現実社会に対してどのような目線を向けているかという差がございます。技術分野では最適化を考えていくものでございますので、実生活ではできること、社会についてはそういった見方をもたせる考え方をさせるというのが教科の目指すところでございますので、どの発行者もいけると思います。

（池野和己 教育長）他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「技術・家庭（技術分野）」の質疑を終了いたします。続いて「技術・家庭（家庭分野）」の説明をお願いします。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）技術・家庭（家庭分野）についてご報告いたします。技術・家庭科（家庭分野）につきましては、3者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍株式会社は、学習指導要領の目標を受け構成されており、他者と異なり、B食衣住、C消費生活と環境、A家族・家庭生活の順に配列されているのが特徴です。知識及び技能の習得の工夫として、裏付ける実験や実生活で役立つ知識を掲載し、巻末に用語解説や防災・減災手帳、生徒の視界体験眼鏡が付録されています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、例や視点、情報が適宜掲載され、考え方が図示されています。「生活の課題と実践」では、問題解決の複数の実践例と思考ツールをまとめています。実践的な態度の育成の工夫として、実社会での活用例が掲載されています。脚注には豆知識やコツが掲載され、実感をもって学べる実物大の写真や、図、グラフ等参考資料の情報量が多く、教科書に直接書き込めるページもあり、ワークブックとしても活用できます。

教育図書株式会社は、学習指導要領の目標を受け、知識及び技能を生かして思考力・判断力・表現力等のトレーニングができる構成です。知識及び技能の習得の工夫として、「みつめる」「学ぶ」「ふりかえる」の流れで、豊富な情報と、丁寧な説明で教科書に沿って学べます。巻末には実生活で

目にする様々なマークと、献立シールが添付されています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、実践的な学習活動を資料と共に多数掲載しています。「生活の課題と実践」でも、多様な問題解決の実践例を掲載しています。実践的な態度の育成の工夫として、繰り返し問題解決的な進め方に当てはめて学習を進めていく中で、実生活場面での応用力が身に付くように図られています。巻頭の年中行事と暮らしから各内容と関連でき、「先輩に聞こう」では学びが実生活で役立つ例に触れています。

開隆堂出版株式会社は、学習指導要領の目標を受け、関心や実生活から学習の過程を通して主体的・対話的で深い学びを実現する構成です。知識及び技能の習得の工夫として、情報過多を避けてポイントを絞っています。献立では、見て知識をつなぐ実践的な工夫があります。巻末には災害についてのポイントや、授業で役立つ資料を掲載しています。思考力・判断力・表現力等の育成の工夫は、ポイントが図式で示され、実態に応じて選べるように題材を幅広く掲載しています。「生活の課題と実践」では、進め方やまとめ方を端的に説明しています。実践的な態度の育成の工夫として、実生活で学びを生かそうとする課題や、社会で活躍する先輩へのインタビューがあります。脚注には豆知識、爪見出しには食材や道具の写真と名称を掲載しています。実物大の写真やイラストがあり、全体にSDGsが編み込まれています。

これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）ただ今「技術・家庭（家庭分野）」について説明していただきました。ただ今の説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（大塚崇行 委員）記載されている項目の順番が、東京書籍のものは衣食住、消費生活、家族・家庭生活の順で、その他のものは家族・家庭生活、衣食住、消費生活の順になっていることで、教える際の理想的な流れについて伺います。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）各者の工夫がなされているところで、生徒の実態に応じて、教員の側でその順番を決めていくことになりますので、どの教科書になっても大丈夫でございます。東京書籍のものについては、趣意書にあるように全国的な年間学習指導計画の傾向から食衣住から記載されているのではないかと専門部会で意見が出ました。

（中野住衣 委員）調理実習について写真と時系列で各者ともわかりやすい記載がされていますが、1者の中に実習の後に、缶詰やレトルト、冷凍食品と比べてみようという記載がありました。これについて興味深く読みました。実際の社会の中ではレトルトや冷凍食品は日常的に多くの家庭で使われていると考えていますし、買い物の仕方も変化し、トラックでの宅配を家庭で受け取ったり、インターネットで注文したものを受け取ったりすることも増えてきており、現代社会において様々に食生活が変わってきているので、そのような視点も取り上げてもらうといいのかなと思います。その点について伺います。

（安藤寛仁 技術・家庭科専門部会長）学習指導要領が変わる中で、各者が工夫されているところがございますが、教科書ごとに教員が実態に合わせて追加資料を作成するなど内容の補充については教材研究で任されている部分がある状況でございます。

（池野和己 教育長）他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「技術・家庭（家庭分野）」

の質疑を終了いたします。続いて「英語」の説明をお願いします。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 英語についてご報告いたします。英語につきましては、6者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、小中の連携が配慮されているため、既習事項の確認や復習がしやすいです。SDGs など幅広い題材、話題が多く、新しい時代に必要な語彙が多く身に付きます。生徒の興味を引きそうな日常的な話題や社会的な問題、他教科と関連づけた題材、グラフや資料を読み解く題材があり、思考力が身につくような工夫があります。Unit Activityでは自分の考えを深め、コミュニケーション活動が充実しています。付録にカテゴリ別に単語がまとめられており、表現活動を行う際に活用しやすいです。言語を使用する活動の目的や、場面・状況設定が明確であり、自らコミュニケーションを図ろうとする気持ちを高める工夫がなされています。Let's Listen、Let's Talk、Let's Writeでは、言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を行うことができます。

開隆堂出版は、新出事項の導入は Scenes として、漫画形式で目標文が示されていて、言語の使用場面が明確です。本文読解の前に Listen のタスクがあり、扱う言語材料の練習を行ってから本文の理解に入ることができます。環境、平和、人権、共生などの社会的課題も扱い、多様なものの見方・考え方について、生徒に思考力・判断力を促す題材がバランスよく扱われています。教科書の内容を自分の言葉で伝える力、「やりとり」や「メモを用いた発表」などの基礎力、Power-伝え合う力、話し合える力、発表・討論・交渉などを行う力がつくように構成されています。統合的なパフォーマンス活動を行う Our Project があり、場面と内容は活動しやすいように配慮され、最終的には社会的な場面で英語を使うことができるようになっていきます。活動には場面性をもたせ、ペアやグループで行う活動を数多く設定することで、目的と相手を意識したコミュニケーション活動が行えるようになっていきます。

三省堂は、各 Lesson が文法事項や文構造を身に付ける GET のページから始まっており、知識・技能を習得する時間が設定されています。Reading for Information のページが全学年複数回用意され、チラシや資料の中から情報を読み取る力を身に付けることができ、学習効果が期待できます。1レッスン中の USE で話す・書く活動に取り組むことで、目的や場面、状況に応じて思考・判断し、表現する力等を養う構成になっています。Project は、目的や場面、状況に応じて即興でコミュニケーションを図る力と論理的・批判的に考える力を養う構成になっています。既習の文法事項を活用して、自分の考えや気持ちなどを整理し、即興で話したり、まとまりのある内容を話したりする力の育成を目指しています。GET と USE という基本的なレッスン構成に加え、Take Action 等で言語活動を行う場面が多岐にわたっています。

教育出版は、各 Lesson で扱う文法項目、言語材料が目次のページとそれぞれの Part に明確に示されています。練習文を自分で作って確認するページが用意されており、文法事項の定着が確認できます。Lesson の構成は読むことを中心にしており、自然と長文読解の力が身に付くように作られています。予測しながら読む力、自分の考えを具体的に書く力、即興で自分のことを話したりする力を総合的に活用し、グループなどで協働しながら課題を達成していく活動を通して、思考力・判断力を身に付けられるようになっていきます。巻末の Activities Plus では、既習の表現や文をさらに自由に活用できるように復習することができ、ペアでの応答や即興的なやりとり、発表をするための話題や語彙が示されている。Useful Expressions では、特定の場面でよく使われる表現を身に付けることができます。

光村図書は、1年生の1学期からたくさんの文章に触れることができます。また、付録も充実していて、多くの語彙を習得できます。学校生活や年中行事の流れに沿った Unit 構成がされていて、実生活

に近い語彙を習得することができます。学期末では学んできた知識や技能を使いながら、協働学習を通して、思考力・判断力・表現力等を養えるように構成されています。巻末の Let's Talk! では即興で会話をする力、Story Retelling では絵や写真を使って自分の言葉で内容を説明する力が伸ばせるように構成されています。World Tour では、世界の中学生の生の声に触れられる教材となっており、多様な文化や価値観に触れながら英語を使ってコミュニケーションをとることの楽しさや意味を実感できます。3年間を通じてとじ込みになっている Let's Talk! を利用することにより、即興的なやり取りの力を継続的に高め、自分が伝えたいことを話すトレーニングをすることができます。

啓林館は各 Part が Get Ready、Practice、Use と 3 つのスマールステップで構成され、言語材料を練習する時間が十分に確保されています。特に 1 年生では、右上の Target に明記されている言語材料が、語形、語数ごとに縦に揃っていて、変化を視認しやすいです。各国の文化や社会課題などの題材を多く扱い、生徒の思考力・判断力・表現力等を養えるように構成されています。各 Unit 末の Read & Think では、本文から発展した長めの英文を読み、思考力を育成するように工夫されています。Let's Talk では、身近な場面の中で既習の表現を活用して必要な情報を伝え合うなど、実践的なコミュニケーションを通して表現力を養えるように工夫されています。学期末の Project では、4 技能 5 領域を統合する活動を設定し、コミュニケーション活動を図れるようになっています。

これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。「英語」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(大塚崇行 委員) 各者とも QRコードを多用して発音の部分などで活かせる部分があるのかと思いますが、使い方として考えているところはありますでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) QRコードは、教科書を補完し、学習内容をさらに深めることができるように工夫されています。

(内田みどり 委員) 以前の英語の教科書に付属のテキストがあったかと思いますが、そのようなテキストは各者で発行しているのでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 書店等で購入できるテキストは各者で発行しています。

(内田みどり 委員) 教科書だけでは足りない部分もあるかと思いますが、そのようなテキストを利用することも想定されていますでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 各者とも QRコードでホームページにつながる工夫がされており、上尾市全体で e ライブラリにより補完しております。教材につきましては、各教員が研究をしておりますので、その点は安心していただいてもよいと思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) 小学校から英語を学ぶようになり、小学校の英語は楽しいなあと思う児童も多いかと思います。一方で、中学校の英語では 4 技能の習得が必要になり、中学校英語が嫌いになる生徒もいるかと思います。小学校の既習事項がわかるような記載もあり、そのようなことがないように先生方は工夫をされているのだと思いますが、4 技能を画一的に伸ばしていくとともに英

語嫌いを起こさない教科書の工夫について、専門部会の中で議論された内容について伺います。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 各者ともイラストなどで生徒の興味関心を引いたり、勉強ではありませんが柔らかく伝えられたりするよう工夫されています。

(細野宏道 教育長職務代理者) 上尾市内の全校にALTが在籍しており、生の英語を話していただく状況ですが、ALTとの学習が教科書を使ってより効果を上げていくという視点で、この教科書に特徴があるというような議論がされた内容について伺います。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 専門部会の中では、教科書の記載を再度研究する中で、どの教科書もそのような工夫について意識されているという所感は話し合われております。

(中野住衣 委員) 私自身の英語力がなかなか身につけていないという個人的な事情もありますが、生徒が英語嫌いにならず、英語力が確実に身につくためにはどのような教科書がよいのかと考えております。教科書のページの構成で、あまりにも網羅的に記載され、多色のカラーであり、挿絵も多く、情報量が多いと自分ではそれを全部受け入れきれないなと感じました。英語の文章や日本語の表現もすっきりと情報量を絞って、一つ学習の流れの中で決められた外国語的なステップの中で、最後には文法のまとめがあって復習ができるというものが、私は見えて安心しました。生徒が自分で復習するときに、そういう内容の方が復習しやすいのではないかと思います。教科書の情報量や紙面構成についてはどのような議論がありましたでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 教科書ごとにそのような特色があります。教員も教科書を使う際には、目の前の生徒の実態に即して必要だと思えば日本語訳をつけたり、取捨選択をしながら授業を進めてまいります。

(中野住衣 委員) 授業中については、教員の指導があるかと思いますが、生徒が予習・復習をする際は、教科書を使って行うことが多いのでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 予習は教科書を用いて行うことが多いかと思いますが、予習の際にわからないことを教員に指導を求めるといことになろうかと思えます。

(中野住衣 委員) 自主学習も大事で、自分一人で学習を進めるときにどういうものが使いやすいのかなと考え、各者の工夫が様々ある中で質問させていただきました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 日本語が大変多い教科書もあれば、少ない教科書もあります。生徒が予習・復習をする際にどのように教科書を使って英語の学習を行うのかと考えたとき、「私は英語が好きです。」という日本語を英訳すれば“I like studying English.”となり、必ずS(主語)V(述語動詞)の順になります。つまり日本語と英語は全く違う言語であり、これを学習する際に、英語を日本語で理解するのか、英語を英語で理解するように指導するのかということについて議論はありましたでしょうか。

(山田正浩 外国語科専門部会長) 具体的な指導法まで議論はされませんでした。教科書の日本語の多

さについても議論はされませんでした。

（池野和己 教育長）他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「英語」の質疑を終了いたします。続いて「道徳」の説明をお願いします。

（示野浩生 道徳科専門部会長）道徳科についてご報告いたします。道徳につきましては、7者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。

東京書籍は、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、「いじめ」に関する教材が、立場を変えて考えたり、漫画になっていたりして理解しやすくなっており、生徒が深く考える工夫があります。ねらいを達成するための工夫として、巻末に心情円やホワイトボードがあり、心の葛藤を可視化することで、生徒の思考を助け、表現が苦手な生徒でも自分の考えを伝える工夫があります。道徳性を育成する工夫として、教科書の巻頭に見開きで「話合いの手引き」が載っており、話合いがしやすくなるような工夫があります。巻末に小学校の定番資料があり、小学校からの連携を図り、生徒自身が自分の心の変容や成長を知ることができる配慮があります。

教育出版は、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、情報モラルに関する教材が生徒の発達段階に即しており、生命の尊重、いじめ・差別について教材をユニット化し、多面的・多角的に考えさせる工夫があります。ねらいを達成するための工夫として、さまざまな学校行事や体験活動等との連携を図りやすいような教材配列が工夫されて掲載しています。道徳性を育成する工夫として、どの教材にも「学びの道しるべ」という設問が同じ構成であり、自分自身を振り返ったり、見つめたりして、考えを深めさせる工夫があります。学期ごとと1年間の振り返りシートがあり、生徒が自己評価しやすくなるよう配慮され、保護者メッセージ欄も設けています。

光村図書は、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、目次にユニット化されたテーマが示され、「いじめを許さない心」「情報モラル」等、現代的な課題について明記してあります。ねらいを達成するための工夫として、全学年で小学校の定番教材が掲載され、小学校のときの自分と今の自分の考えを比べ、ねらいにより深く迫ることができる工夫があります。道徳性を育成する工夫として、教材末の「見方を考えて、つなげよう」で多面的・多角的な考え方ができ、生徒が主体的・対話的に学び、他の教育活動につなげられる工夫があります。巻末に毎時間ごとの「学びの記録について」があり、生徒が考えたことを書き、一時間の成長を自覚させる工夫があります。

日本文教出版は、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、「いじめ」の問題を重点化し、1年生では各学期に一度いじめについて考えられるような教材が用意されていて、2・3年生でも多くの教材でいじめについて扱っています。ねらいを達成するための工夫として、全ての教材に考えさせたい視点が明記されていて、生徒が見通しをもって学習しやすい工夫があります。道徳性を育成する工夫として、「道徳科での学び方」で学びを深めるための手立てと3つのステップが全学年掲載され、主体的・対話的で深い学びができる配慮があります。学期末の振り返りシートに保護者コメントが記入でき、家庭でも道徳科の授業について振り返る工夫があります。

学研教育みらいは、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、特に、防災教育や健康教育等に力を入れており、今日的で身近な課題について自分自身との関わりの中で考えさせる工夫があります。ねらいを達成するための工夫として、主題名を公表せず、生徒自らが道徳的価値を内面的に自覚することができ、生徒のさまざまな思考を引き出す工夫があります。道徳性を育成する工夫として、教材の中や「深めよう」において、異なる複数意見を提示したり、立場を変えて考えさせたりして、多様な考えに触れる工夫があります。同じテーマを違った観点から考え

るユニット学習教材を連続して掲載し、多面的・多角的に学びを深められる工夫があります。

廣済堂あかつきは、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、「生命尊重」「いじめ防止」を重点的に扱える構成になっており、「いじめを許さない私たちの心」というコラムが全学年にあります。ねらいを達成するための工夫として、全ての教材に偉人や有名人の名言があり、授業で考えた道徳的価値が生徒の心に響く工夫があります。道徳性を育成する工夫として、教材末の「考える・話し合う」では、生徒が道徳上の課題に気付き、問いを基に主体的・対話的に学習に取り組めるよう配慮があります。別冊の巻末に、授業の振り返りを行うチェック欄と学習の記録があり、それらを活用することで、自己の成長を実感できる工夫があります。

日本教科書は、学習指導要領の目標を受け、現代的な課題等を取り上げる上での工夫として、LGBTや臓器移植について扱う資料があり、違いを受け止めたり、他者を理解し尊重したりすることについて考えさせる工夫があります。ねらいを達成するための工夫として、教材が内容項目ごとに配置され、生徒の発達段階を踏まえ、学校の創意工夫により教科書が活用できるようになっています。道徳性を育成する工夫として、余韻を残す教材や主人公の今後を考えさせる教材があり、生徒のさまざまな考えを引き出すための話し合いにつなげやすくしています。巻末の振り返りでは、内容項目の22項目について振り返ることができ、生徒の成長の様子を分かりやすくする工夫があります。

これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）「道徳」について説明していただきました。それでは質疑・意見等がございましたらお願いします。

（内田みどり 委員）各者ともいい内容の文章が掲載されており、とても感動した部分も多くありました。一方で、教員の皆さんはこの教科の評価をしななければいけないと思いますが、ペーパーテストでこの評価をつけるのでしょうか、それとも提出物などで評価をつけていくのでしょうか。

（示野浩生 道徳科専門部会長）道徳科ではペーパーテストは実施しておりません。提出物や授業中の様子などを参考に評価をしております。

（内田みどり 委員）提出物の内容は別冊であるのでしょうか、それとも教員が作るものになるものがあるのでしょうか。例えば、同じ文章を読むのもいろいろな切り口があり、見方も変わってきてしまうと思いますが、いかがでしょうか。

（示野浩生 道徳科専門部会長）授業者それぞれが工夫をして記録を蓄積し、ノートやワークシートを作成しています。

（内田みどり 委員）それでは評価の基準はなくて、先生の見方や感性によって評価が変わってくるということですか。

（示野浩生 道徳科専門部会長）生徒がどのように考えたか、授業の様子や提出物の様子を授業者が見て、どのようなことを考えていたかということで評価をしております。

（大塚崇行 委員）現在使用している学研教育みらいの教科書については、主題名を公表せず、生徒の自由な思考を引き出す特色があるということでしたが、現在使用している中でそのような効果が出て

いるのか伺います。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 授業者はそれぞれ教材研究で工夫をして、発問等を練って授業を行っています。

(大塚崇行 委員) うまく運用できているということによろしいですね。

(示野浩生 道徳科専門部会長) はい、そのとおりです。

(中野住衣 委員) 主題名が出ている場合と出ていない場合とがあるということについて、専門部会での議論は行われなかったのでしょうか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 専門部会では、主題名が出ている場合と出ていない場合とでそれぞれ良さがあるということで、それぞれの場合における授業の進め方などについて議論を行いました。

(中野住衣 委員) ノートがついているものとついていないものがありますが、ついていない場合には、生徒の書く活動をどのように進めていくのか伺います。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 授業者の授業デザインによって変わってきますが、もし書く活動が必要という場合であれば、別冊があればそれを使う場合もあるでしょうし、ない場合はワークシートをそれぞれ作成して書かせることになります。

(中野住衣 委員) 今の道徳科の状況はどうですか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) ワークシートを作ってファイルに綴じさせるところもあれば、ノートのようなものを書かせているところもあります。

(中野住衣 委員) 別冊のノートがあることの良さについては専門部会で話題に出ましたか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 別冊があるかないかということは議論に出ましたが、あるとよいとかよくないかという議論は特にありませんでした。

(中野住衣 委員) 教員も忙しい中で、そのようなものが用意されていることのよさはあるのかと思いましたが、特にそういう点からも出てこなかったということですね。2点目の質問は、別冊ノートの中で保護者欄があるものが2つあり、ないものも多くありました。道徳を指導する中で、家庭と連携して行うことがとても大事だと思いますが、保護者との連携という部分ではどのような取り組みがありますか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 長期休業中の課題として、それぞれの学期で印象に残ったものを保護者と一緒に読んでみるということを出したり、生徒の感想文について保護者に感想を書いてもらい連携を図っていくこともあります。

(中野住衣 委員) それぞれ資料の最後に発問例が出ており、発行者によって似通っている部分もあれば、そうでない部分もある。この発問の数や内容については話題に出ましたか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 専門部会の中では発問があると参考になるという話はありました。道徳の発問はそれぞれの学級の実態によって授業者が工夫して行うものですので、結局は教材研究をしてどのような発問にするか考えて授業を行っていくことになります。

(中野住衣 委員) 2つの発問として、1つは物語の中の主人公の気持ちや心情を考えさせて、もう1つは一般化を図って自分自身がこのあとどのように生きるのかを考えさせるパターンが多かったように思います。そういう内容を授業の中で発問として行うことがあるということでしょうか。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 以前は、主人公の気持ちを考えさせる道徳の授業が多かったですが、新しい学習指導要領になってから、必ずしもそうではなく、授業者が工夫して発問を立てて答えさせているので、いろいろなことが考えられると思います。

(中野住衣 委員) 1つの発行者のものをみると、主人公の心情を問うものと一般化のものとして自分自身がこれからの生き方につなげるものと見方を変えてというところがあって、違った発問が入ってくることで、授業展開が変わってくると思いました。そこについては資料を使って授業者が工夫して行っていくということによろしいですね。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 多面的、多角的に考えることが大切ですので、それぞれ教材研究をして授業者が工夫していくこととなります。

(細野宏道 教育長職務代理者) 毎回、道徳科では議論になりますが、テーマが記載されていて生徒が文章を読むということと、テーマは与えない中で読んでいろいろ考えるということがあります。説明の中で昔は心情を読むということであったものが、今はいろいろ考えるということに変わってきているとありました。私は道徳というものは、最終的に個人がどう生きるかを考えさせるものだと考えています。テーマが示されて読む文章については、生徒はそのテーマに沿った回答を考えてしまい、考えが広がっていかないのではないかと思います。テーマがなければ自由な発想で読めるのではないかとともに思います。ただ、道徳は英語や数学のように専門の教員が行うのではなく、各クラスの担任の教員が授業を教材研究の上で行うこととなっていますので、各教員のスキルが生徒の教育に関わってくる部分があると思います。そういう点からは、テーマを示して学ぶほうがよいという面もあるような気がしていますし、そうではなくて、生徒の能力は無限なので、テーマがない中で自分たちがどう生きるかを帰結させるのだという2通りの考え方もあると思います。一長一短だとは思いますが、専門部会の中での議論ではどのようなようであったか伺います。

(示野浩生 道徳科専門部会長) 小学生で道徳を学んだ上で学ぶ中学生の道徳ですので、例えば主題名が書いてあると、こういうテーマであればこういう回答をしようとするややもすると議論が深まらない場合もあるかもしれませんが、道徳科としてそれぞれ内容項目を学ぶ必要がありますので、それが書いてあればねらいがはっきりするという面もあります。結局は教師一人一人が教材研究を行っていくことであり、それぞれのよさはあるかと思っています。

(池野和己 教育長)他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「道徳」の質疑を終了いたします。

(川原田一郎 中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長)以上で、調査検討事項の説明を終了いたします。

(池野和己 教育長)ありがとうございました。それではこれより、中学校の教科書選定の投票を行います。投票は、これからお配りする投票用紙により行います。投票用紙には、採択すべきと考える教科用図書の第1位と第2位をご記入いただきます。第1位の教科用図書の右側のワクに「◎」、第2位の教科用図書の右側のワクに「○」をご記入ください。第1位を2点、第2位を1点で集計し、委員の皆様のご意見を集約し、採択すべき教科用図書を選定したいと存じます。事務局は、投票用紙の配布等の準備をお願いします。

～ 投票用紙配布 ～

(池野和己 教育長)投票箱の確認をお願いします。

～ 投票箱中身確認 ～

(池野和己 教育長)異常なしと認めます。それでは投票用紙の記入が終了されましたら、終了した委員の方から、投票箱の方にお進みいただき、投票をお願いいたします。

～ 投票完了 ～

(池野和己 教育長)投票が終了しましたので、事務局は開票及び集計をお願いします。

～ 集計 ～

(池野和己 教育長)集計が終わりましたので、「国語」から順番にご報告を申し上げます。令和2年度使用中学校教科用図書得点結果でございます。

「国語」、1位「光村図書出版株式会社」12点、2位「株式会社三省堂」4点。

「書写」、1位「光村図書出版株式会社」10点、2位「教育出版株式会社」7点。

「社会(地理的分野)」、1位「東京書籍株式会社」12点、2位「教育出版株式会社」及び「株式会社帝国書院」それぞれ3点。

「社会(歴史的分野)」、1位「東京書籍株式会社」12点、2位「教育出版株式会社」及び「株式会社帝国書院」それぞれ3点。

「社会(公民的分野)」、1位「東京書籍株式会社」11点、2位「教育出版株式会社」4点。

「地図」、1位「株式会社帝国書院」12点、2位「東京書籍株式会社」6点。

「数学」、1位「東京書籍株式会社」11点、2位「株式会社新興出版社啓林館」5点。

「理科」、1位「教育出版株式会社」10点、2位「東京書籍株式会社」6点。

「音楽(一般)」、1位「株式会社教育芸術社」12点、2位「教育出版株式会社」6点。

「音楽(器楽合奏)」、1位「株式会社教育芸術社」12点、2位「教育出版株式会社」6点。

「美術」、1位「日本文教出版株式会社」10点、2位「開隆堂出版株式会社」8点。

「保健体育」、1位「株式会社大修館書店」8点、2位「東京書籍株式会社」及び「株式会社学研教育みらい」それぞれ5点。

「技術・家庭（技術分野）」、1位「開隆堂出版株式会社」11点、2位「東京書籍株式会社」7点。

「技術・家庭（家庭分野）」、1位「開隆堂出版株式会社」11点、2位「東京書籍株式会社」7点。

「英語」、1位「開隆堂出版株式会社」12点、2位「東京書籍株式会社」6点。

「道徳」、1位「株式会社学研教育みらい」10点、2位「東京書籍株式会社」5点。

以上によりまして、令和3年度使用中学校教科用図書の得点結果となります。それではこの後、議案の審議の準備をする関係がございますので、ここで暫時休憩を取らせていただきます。再開は20分後の3時45分に再開をさせていただきます。ありがとうございました。

～ 休憩 ～

日程第4 議案の審議

（池野和己 教育長）大変お待たせいたしました。それでは続いて「日程第4 議案の審議」に入ります。皆様のご意見を集約いたしました議案43号が提出されました。「議案第43号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」説明をお願いします。

（瀧沢葉子 学校教育部長）議案第43号につきましては、田中副参事兼指導課長が説明申し上げます。

○議案第43号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

（田中栄次郎 指導課長）「議案第43号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」説明致します。令和3年度から上尾市立中学校において使用する教科用図書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により採択をしたいので、この案を提出致します。「国語」、「光村図書出版」。「書写」、「光村図書出版」。「社会（地理的分野）」、「東京書籍」。「社会（歴史的分野）」、「東京書籍」。「社会（公民的分野）」、「東京書籍」。「地図」、「帝国書院」。「数学」、「東京書籍」。「理科」、「教育出版」。「音楽（一般）」、「教育芸術社」。「音楽（器楽合奏）」、「教育芸術社」。「美術」、「日本文教出版」。「保健体育」、「大修館書店」。「技術・家庭（技術分野）」、「開隆堂出版」。「技術・家庭（家庭分野）」、「開隆堂出版」。「英語」、「開隆堂出版」。「道徳」、「学研教育みらい」以上でございます。よろしく願いいたします。

（池野和己 教育長）ただ今、議案第43号について、説明をいただきました。質疑、意見等ございましたら、お願いします。

（池野和己 教育長）よろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

（池野和己 教育長）ないようですので、これより採決に移ります。「議案第43号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

～委員全員から「異議なし」の声～

（池野和己 教育長）異議ないものと認め、原案のとおり可決いたしました。なお、この採択結果を埼玉県教育委員会へ報告いたします。

日程第5 閉会の宣告

（池野和己 教育長）以上で予定されておりました日程は全て終了いたしました。これをもちまして、令和2年上尾市教育委員会第1回臨時会を閉会いたします。長時間に渡りましてお疲れ様でした。

令和2年9月24日 署名委員 中野 住衣

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。